



0055725-000

A19-651-1

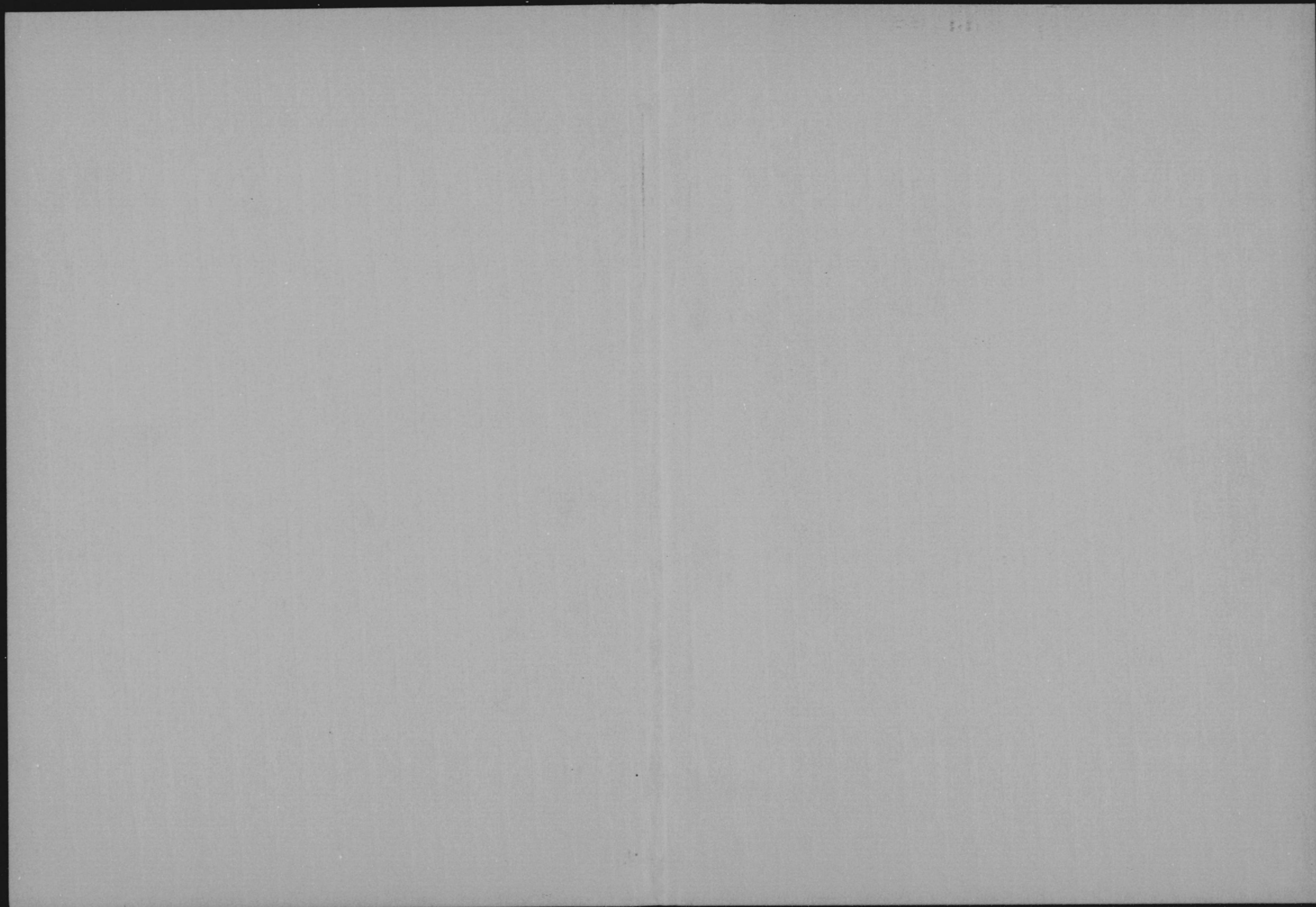
伊太利ノ戦時動員組織

[陸軍省] 軍務課

1937. 11

AJB







池R72

池  
右  
下  
左

伊  
太  
利  
ノ  
戦  
時  
動  
員  
組  
織

軍  
昭  
和  
一  
三  
務  
一  
二  
二  
課  
六



AI9  
651  
1



78W31691

目次

伊太利ニ於ケル戰時經濟統制ノ機構

(I) (I) 序 說 . . . . . 一

(I) (I) 戰時統制機構ト其ノ實施機關 . . . . . 二

A、戰時統制組織ノ性質 . . . . . 二

B、動員準備ヲ司ル機關 . . . . . 五

1、最高國防評議會 . . . . . 五

2、民事動員委員會 . . . . . 七

3、産業觀察部 . . . . . 〇

C、動員時ニ於テ設置サルヘキ官廳及其ノ準備機關 . . . . . 二

1、五ツノ戰時局 . . . . . 二

2、戰事局ノ核 . . . . . 三



	a)	原料局	一三
	b)	軍需工業局	一四
	c)	食料局	一五
	d)	宣傳並扶助局	一六
	e)	勞働局	一六
3、		市民的抵抗委員會	一七
(II)		戰時ニ於ケル國民ノ非軍事的義務	一九
	A、	一般的戰時奉仕義務及戰時規律	一九
	B、	民事動員ニ服スルモノ	二一
(IV)		軍需工業ニ對スル國家統制	二三
	A、	平時	二三
	1、	情報權	二三
	a)	一般的ナモノ	二三

	b)	產業觀察部	二三
	c)	原料局ノ核	二四
2、		動員計畫	二五
3、		許可	三〇
4、		個々ノ軍需工業部門ニ於ケル統制	三一
	a)	石油業	三一
		輸入許可	三四
		一般的輸入許可	三四
		個別的輸入許可	三六
		鑛油ノ加工ニ對スル特許	三八
		石油貯藏ニ對スル特許	四三
		一般的規定	四四
	b)	防毒面製作工業	四五
	c)	地圖製作	四八
B、		動員後ニ於ケル國家統制	五〇



1、一般的義務	五〇
2、營造物ノ民事動員	五一
3、軍需工業	五四
C、軍需工業ニ對スル國家統制ノ最近ノ傾向	五七

(附錄) 伊太利ノ戰時動員組織一覽表

伊太利ニ於ケル戰時經濟統制ノ機構

(I) 序 説

伊太利ノ戰時統制ノ機構ガ本格的ニ出來上ツタノハ一九一四一八年ノ歐洲大戰後ノ事ニ屬スル。伊太利ノ戰時統制組織ハ軍需工業ノ統制ニ限ラレタモノデハナク、全國家的生活、經濟生活、市民的生活ヲ統制ノ對象トシテ居ル。

ソノ組立ハピラミツド狀ヲナシソノ頂點ニハ首相ガアツテ最高指揮ト最後の決定ヲ行ヒ、首相ノ「プレイントラス」トシテ最高國防評議會ガ存在シ、其下ニ多クノ委員會官廳ガアル。其組織ハ國家構成ノ最小單位デアル市町村ニ及ブモノデアル。以上ノ統制諸機關ハ各長官ノ



間ニ存在スル人的結合ニヨリ或ハ其他ノ組織的手段ニヨツテ相互ニ聯繫シ仕事ノ上ノ摩擦、重複ヲ防止シ、權限ノ爭ガ發生シナイヤウニナツテ居ル。カクテ歐洲大戰ノ教訓ニ鑑ミ市民的官廳ノ外ニ戰時經濟統制ヲ實施スル所ノ一ツノ老犬ナ官廳組織ガ出來上ツタノデアアル。以上ノ官廳ノ中ニハ、平常カラ終局的ナモノトシテ或ハ暫定的ナ存在トシテ設ケラレテ居ルモノモアレバ、戰爭勃發ト同時ニ設置サレルモノモアル。軍需工業云一般的ニ「戰爭ニ必要ナ總テノ工業」ニ對スル統制ハ以上ノ官廳組織中ノ一環トシテ存在スルノデアアル。

伊太利ノ戰時經濟統制機構ニ於テ注目スベキ點ハ其レガ何等ノ有機的統一體ヲナスモノデナク各種ノ機關ノ非有機的ナ寄せ集メニ過ギナイ

事デアアル。蓋シ伊太利ノ戰時經濟統制組織ナルモノハ、統一的ナ法律ニ依ツテ出來上ツタモノデナク一九二三年カラ一九三五年ニカケテ必要ニ應シ一時ノ間ニ合ハセトシテ個々別々のニ組立ラレタノデアツテ今日ニ於テ決シテ完結シテ居ル譯デハナイノデアアル。

## (II) 戰時統制機構ト其實施機關

### (A) 戰時統制組織ノ性質

戰時經濟統制ノ法律的根據ヲナスモノハ次ニ掲ゲル三ツノ法律群デア  
ル。

I、一九二五年六月八日附法律第九六九號「國家ノ戰時編成ニ關スル



法律』及一九三二年八月二十五日附勅令第一二二三號。

一九三三年三月三日附命令第一六五號 一九三四年四月二十四日附命令七六〇號ヲ以テ修正一

一九三三年三月十三日附勅令第六七四號。

Ⅱ、最高國防評議會ノ構成及產業觀察部ノ任務ニ關スル一九二八年一月八月附勅令第一六五號。

Ⅲ、一九三一年十二月十四日附法律第一六九九號「戰時規律ニ關スル

法律」同法施行ニ關スル一九三三年六月十五日附勅令第一一七六號。

政府ハ一九二五年六月八日ノ法律ニ依リ國家ノ戰時編成ヲ定ムル權限ヲ認メラレタ。此授權ニ因リ政府ハ法律ニヨラスシテ命令ヲ以テ個別

的ニ戰時編成ヲ決定スル事ガ出來ル。此國家ノ戰時編成ハ全体トシテ國家總動員ヲ構成スル。國家總動員ハ更ニ軍事動員ト民事動員トニ分レルガ、ココデ問題トナツテ居ルノハ後者デアル。民事動員ノ目的トスル所ハ軍隊ヲ除キ一切ノ國力ヲ戰時編成ニマデ綜合スル事ニアル。民事動員ハ一般的ナモノト部分的ナモノト國民生活ノ一部分ニ對シテ適用サレルトニ分レル。

軍事動員及民事動員ノ參謀本部ハ最高國防評議會デアル。個々ノ分野ニ就イテハ夫々専門ノ機關ガアツテ其諮問ニ答ヘル。即軍事デハ陸、空、海各省ノ評議會デアリ、民事デハ民事動員委員會デアル。民事動員委員會ハ、組合大臣ノ監督ヲ受ケルガ組合大臣ハ又最高國防評議會



ニ参加スルカラ結局最高国防評議會ノ監督ニ服スル事ニナル。産業觀察部ハ民事動員委員會ノ中ニアツテ情報機關トシテ活動スル。

戦争ガ勃發スルト共ニ五ツノ新ラシイ戰事局ガ設ケラレル。勿論其準備ハ平常カラ出來テ居ナケレバナライ。原料配給、食料品及勞働力ノ調達ノ分野ニ於テハソノ組織ガ萌芽的形態ニ於テ既ニ出來テ居ル。此等ハ相互間就中民事動員委員會ト密接ナ聯絡ヲ保ツテ行動スル。此種ノ戰時局ハ一方ニ於テ情報ヲ司リ他方ニ於テ動員計畫ヲ立案シ、戰時ニ於ケル經濟活動ノ圓滑ナル運行ヲ準備スル。

地方的性質ヲ有スル機關トシテ市民的抵抗委員會ガアル。此委員會ハ動員ノ開始ヲ俟ツテ設ケラレルモノデアツテ市町村ノ戰時行政ヲ管理

シ、戰時統制ガ國家的生活ノ細胞ニ迄滲透スル事ヲ確保スル。

其レハ一部分情報機關デアリ、一部分裁判所ノ補助機關デアリ、五ツノ戰事局ノ活動ヲ司リ最高国防評議會ノ仕事ヲ支援シ之ヲ容易ナラシムル機關デアル。



(E) 動員準備ヲ司ル機關

1. 最高國防評議會 (Commissione Suprema di Difesa)

最高國防評議會ノ一般の任務ハ、國防問題ヲ研究シ、之ヲ解決スル事デアアル。此ノ外最高國防評議會ハ、一切ノ國力ヲ國防組織ノ中ニ編成シ、國力ノ國防的利用ニ關スル準則ヲ決定スル。即最高國防評議會ノ主タル任務ハ、民事動員ノ準備ヲ行フ事デアアル。即最高國防評議會ヲ頂點トシテ、ココカラ動員準備ニ關スル總テノ線ガ走ツテ居ルノデアアル。コノ爲最高國防評議會ハ、情報、監査、協力ニ關スル權限ヲ持ツテ居ル。

最高國防評議會ハ次ニ掲ゲル三ツノ機關ヨリ成ツテ居ル。即、



(1) 決議 (審議) 委員會 (Comitato Deliberativo)

(2) 諮問機關 (Organi Consultivi)

(3) 總務部 (Segreteria Generale)

決議委員會ハ、最高國防評議會ノ中核ヲナスモノデアアル。政府首長—  
即ムツソリニ—ハ決議委員會ノ議事ヲ主宰シ、以テ最高國防評議會  
ノ活動ニ對シテ、決定的影響ヲ及ボス。決議委員會ヲ構成スル委員ノ  
中ニハ決議ニ參加スル委員ト、諮問ニ應答スルニ過ギナイ委員トガア  
ル。決議委員ハ、外務大臣、内務大臣、大藏大臣、陸軍大臣、海軍大  
臣、空軍大臣、農林大臣、交通大臣及組合大臣デアアル。問題ガ其他ノ  
省ノ管轄事項ニ關スル場合、必要ニ應ジ主務大臣ヲ決議委員トシテ召

集スル事ガ出來ル。

諮問委員ハ全軍參謀總長、陸、海、空軍ノ各參謀總長、フアシス夕黨  
書記長及民事動員委員會委員長デアアル。

決議委員會ハ、諮問機關ニ諮問サルヘキ問題ヲ決定スル。更ニ決議委  
員會ハ實施サルベキ方策ヲ決定スル。總務部ハ、決議委員會ノ決定シ  
タ方策ヲ宣言スル。

諮問機關トシテハ陸、海、空軍ニ各一ツ、經濟及民事ノ分野ニ一ツ、  
都合四ツアル。即、

(1) 陸軍ニ就テハ、陸軍會議

(Consiglio dei Esercito)



(2) 海軍ニ就テハ、海軍會議

( Comitato degli Ammiragli )

(3) 空軍ニ就テハ、空軍會議

( Comitato tecnico della Regia Aeronautica )

(4) 民事及經濟ノ分野ニ就テハ、民事動員委員會

( Comitato per la Mobilizzazione Civile )

諮問機關ノ任務ハ上述ノ如ク最高國防評議會ニ依ツテ提出サレタル問題ニ對シ意見ヲ具申スル事ニアル。

最高國防評議會ノ任務遂行ヲ容易ナラシムル爲、總務部ヲ設ケル。總務部ハ陸軍大臣ノ監督及懲戒權ニ服スル。

總務部ハ、最高國防評議會議長——即政府首長タルムツソリニ——ノ指

令ニ基キテ、諮問機關續イテ、決議委員會ニ提出サルベキ諸問題ヲ纏メテ一定ノ順序ヲ附シ決議委員會ノ決定ヲ各省ニ通報スル。總務部ノ指導ニ當ル機關トシテ參謀本部高級將校一名及陸、海、空軍ヨリ各一名ノ將校ヲ選拔スル事ニナツテ居ル。

以上述べタル如キ最高國防評議會就中決議委員會、諮問機關ノ編成ニ鑑ミ國防ニ依リテ包含サレル分野ガ如何ニ廣大デアルカガ看取サレル。例ヘバ殆ド總テノ國務大臣ハ決議委員デアル。カクテ行政分野ハ悉ク戰時編成ノ埒内ニ入ルノデアル。



## 2. 民事動員委員會

最高國防評議會ノ委員ハ、主トシテ又政府ノ官吏デアリ從ツテ、最高國防評議會ハ國防問題ニ關スル各省間ノ連絡機關ニ過ギナイノデアルカラ、ココニ民事及經濟ノ分野ニ於ケル最高國防評議會ノ活動ヲ準備シ此種ノ問題ニ關スル諮問ニ應答スルタメ新シイ機關ヲ必要トスル。民事動員委員會ハ以上ノ使命ヲ以テ生レタ。民事動員委員會ハ各方面ノ專門者ヲ網羅スル許リデナク、專門者ハ決議委員ト違ツテ其他ノ行政事務ニ煩ハサレル事ナク、民事動員ノ問題ニ専心スル事ガ出來ルカラ以上ノ分數ニ於ケル民事動員委員會ノ活動ハ勢ヒ圓滑ニ進行スル事ニナル。從ツテ、其活動分野ハ相當廣範圍ニ互ツテ居ル。

即民事動員委員會ハ最高國防評議會ノ諮問ニ應答スル爲、一切ノ國力ヲ國防ニ動員シ、戰爭遂行ニ必要ナル一切ノ資源ヲ準備シ編成シ、賣消スル事ヲ目的トスル總テノ問題ノ中軍事ニ關係ナキモノヲ研究スル。民事動員委員會ハ最初經濟省ニ設置サレタ。然ルニ一九二九年十月十四日經濟省ガ廢止サレテ、組合大臣ガ農業ヲ除キ、經濟大臣ノ任務ヲ引繼グニ至リ、民事動員委員會ハ、組合大臣ノ監督ニ服スル事ニナツタ。

而シテ組合大臣ト委員會トノ關係ハ、組合大臣ト委員長トノ協定ニ依ツテ定メラレル。以上ノ協定ハ又組合省中ノ如何ナル官廳ガ委員會ノ監督ニ服スベキカヲ決定スル。



委員會ノ仕事ニ關係ヲ有スル其他ノ省トノ協働ヲ圓滑ナラシムル爲、委員長ハ要スレバ、關係各省ノ代表者ヲ委員會ニ召集スル事ガ出來ル。兵器彈藥ノ製造ニ關シ、委員長ハ「最高軍事技術委員會」又ハ「軍事化學部」ノ代表者ヲ召集スル事ガ出來ル。

民事動員委員會ノ編成。

委員長ハ政府首長―即ムツソリニ―ノ推薦ニ基キ、勅令ヲ以テ任命サレル。

輔佐機關ハ、陸、海、空軍各省カラ、夫々一名ノ代表者、最高國防評議會總務部長―以上常任委員―及科學、經濟ニ關スル八名ノ代表者デアル。

(註―最近以上ノ數ハ、十一名ニ引上ゲラレタ。此ノ外組合省ノ總務部長及次ニ掲ゲル省ノ總務部長十名モ參加スル事ニナツタ。

外務省、植民省、大藏省、內務省、司法省、労働省、商船省、遞信省、文部省、移住省)

政府首長ハ、其最高國防評議會議長タル資格ニ於テ、組合大臣ノ推薦ニ因リ民事動員委員長ノ同意ヲ求メタル上、委員ヲ任命スル。各委員ハ、技術團體、經濟團體、及文化團體ノ中カラ、一般ニハ科學、工業、農業及國民經濟ノ分野カラ選抜サレル。委員ノ任期ハ普通二ケ年デアルガ任命後一ケ年ヲ經過スルトキハ、四名宛抽籤ニ依ツテ辭職スル。以上ノ外委員長ハ必要ニ應ジ、特定ノ問題ニ關スル專門家ヲ召集スル



事が出来る。

委員會ニハ一名ノ常任書記ヲ置ク。

### 3. 産業觀察部

軍事動員委員會ガ擔任ノ諸問題ニ關シテ、細部ニ亘ツテ研究スル爲ニハ、國內ノ産業狀態就中各企業ノ生産能力、原料、勞働力ニ對スル需要ニ關シテ、正確ナ認識ヲ持ツテ居ル事が絶對的ニ必要デアル。此ノ爲ニハ情報機關ガアツテ、全國ニ分散シ個々ノ變化ヲ其ノ時々ニ報告スル事が必要デアル。

所謂産業觀察部 (Observer of Industrial) ハ、以上ノ必要ニ基イテ設ケラレタ。

産業觀察部ノ主タル任務ハ、軍需生産ニ對スル協働ト云フ見地ニ立ツテ各産業ノ活動、生産狀態ヲ調査スル事デアル。

勿論、此ノ場合重點ヲ設備、勞働力、技術的能力及ビ生産能力ニ置カ



ナケレバナラナイ。此ノ外産業觀察部ハ軍需生産ニ關係アル官營施設ヲ監督スル。即次ノ如シ。

工場、技術本部、其ノ他ノ生産、調査、研究施設。

以上各施設ノ指導者ハ、其ノ技術的、科學的能力ヲ以テ、産業觀察部ノ任務遂行ヲ援助シナケレバナラナイ。産業觀察部ノ各産業ニ對スル權限ニ就テハ後段參照。

産業觀察部ハ、民事動員委員會ノ機關トシテ見ルベキデハナイ。其レハ民事動員委員會ノ委員長ニ直屬スルモノデアル、即、民事動員委員會トハ獨立ノ存在デアアル。

兩者間ノ協働ハ、共ニ同一ノ指導者ヲ上ニ載ク事ニ依ツテ確保サレル。産業觀察部ヲ民事動員委員會ノ下位ニ置ク事ハ不適當デアラウ。蓋シ

産業觀察部ハ高級將校ヨリ選抜サレルニ對シ、民事動員委員會委員ノ大多數ハ、民間代表者デアリ從ツテ産業觀察部ハ、高級將校デアル委員長ニ直屬セシメタ方ガ、ヨリ適當デアルカラデアアル。

産業觀察部ハ、最初經濟省ニ置カレタガ經濟省ノ廢止ニ依リ、今日デハ組合省ノ一課ヲナシテ居ル。

産業觀察部ノ編成ハ左ノ如シ。

産業觀察部ハ陸、海、空軍ノ高級將校、其ノ他軍關係營造物ノ化學者ヨリ成リ、合計五五名ノ部員ヲ擁シテ居ル。

最高國防評議會ハ以上ノ部員數ヲ増加スル事が出來ル。

部員ノ各省別割當ハ次ノ如シ。

陸 軍 . . . . . 四〇名



海軍……………二二名

空軍……………三名

部員タルノ資格要件ハ、組合省ノ同意ヲ求メタル上、軍當局ノ作製スル規定ニ依ル。

最後の任命ヲ見ルマデ、六ヶ月ノ審査期間ヲ必要トスル。任期ハ、五ヶ年ヲ超ヘザルモ必要ニ應ジ政府首長ノ命令ヲ以テ、之ヲ延長スル事ガ出來ル。

(C) 動員時ニ於テ設置サルベキ官廳及其準備ノタメ既に存在セル機關

ノ五ツノ戦時局

民事動員ヲ實施スルニハ以上列擧シタ諸機關ト此等ハ主トシテ動員ノ準備ヲ司ルニ過ギナイノ外ニ全經濟力ヲ綜合シ兵スレハ稀少原料、生産物ノ國家監理ニ迄進ム事ノ出來ル組織ガ必要デアル。即一九二五年六月八日附法律第四條ニ依リ次ニ掲ゲル四ツノ局ガ設ケラレル事ニナツタ。

a) 軍需及民需ノ對象タル原料ノ配給、輸入、調達ヲ確保スルタメノ局  
一 爾後之ヲ原料局ト呼ブ

b) 兵器ノ製作、原料、工業生産物ノ配給、官營工場及民營工場ノ監督  
ニ關スル局 一 軍需工業局



。食料品ノ購入、配給及國營並ニ民營ノ食料品工場ノ監督ニ關スル局  
一食料局一

d) 國內及國外ニ於ケル宣傳活動、軍人家族、歸國セル在外伊太利人ニ  
對スル扶助、戰傷者ニ對スル處置、戰爭年金ノ決定ニ關スル局一宣  
傳並ビニ扶助局一

以上ノ四局ハ最高國防評議會ヲ選ジテ各省ニ分屬シ其監督ニ服スル。  
戰時局ノ仕事ヲ合理的ニ分散スルタメ各地ニ地方委員會一 Comitato  
Regionale 一ヲ設ケル。地方委員會ハ四ツノ戰時局ノ仕事ヲ擔當シ、  
其權限内ニ於テ動員サレタ一切ノ民事的國力ヲ指導スル。  
四ツノ戰時局ニ對應シテ即、工業、農業、商業、扶助、宣傳ニ關シテ

地方委員會ノ下ニ小委員會一 Sotto-Comitati Corrispondenti Alle  
Singole Attività 一ヲ設ケル。

原料局、軍需工業局及宣傳局ノ對外活動ニ關スル規定ハ重要デアル。  
即、以上三局ノ海外ニ於ケル活動ハ外務大臣ノ諒解ヲ求メテ行ハレナ  
ケレバナライ。即外務大臣ハ各地ニ外交代表者ヲ置イテ戰時局ノ活  
動ヲ監督セシメルノデアル。

動員下令トモニ勞働力調達ニ關シ特別ノ戰時局ヲ設ケル。此戰時局  
ハ又捕虜ノ處分ヲ論ズル。勞働局ハ軍ニ直屬シ其指令ヲ受ケル。  
但、勞働力動員ニ關スル準備ハ最高國防評議會ノ管轄ニ屬スル。最高  
國防評議會ハ、兵役義務者ニ關スル限り軍當局ノ諒解ヲ求メナケレバ



ナラナイ。然シ出來得ル限り兵役義務者ノ使用ヲ避ケル事ニナツテ居ル。勞働局ノ動員ヲ受ケタル場合、兵役義務者ハ一般市民ト同一ノ取扱ヲ受ケル。

## 2 戰事局

以上ノ戰事局ニ對シテハ命令ヲ以テ所謂「核」又ハ「中央局」ガ設ケラレテ居ル「核」ハ平時ニ於テ戰時局ノ仕事ヲ準備スル事ヲ任務トスル。

### a 原料局

一九三三年三月二日附命令 (Decreto - Legge) 一 一九三四年四月二十日變更一ヲ以テ原料局ノ仕事ヲ準備スルタメ一ツノ局ガ設ケラ

レル事ニナツタ。此核ハ組合省ニ設置サレ原料局ノ仕事ニ關シ、組織上ノ準備作業ヲ行フ。核ノ指導者ハ組合省ノ常任官吏デアアル。核ハ指導者ト軍當局ノ任命ニカカル現役將校及下士ニ依ツテ編成サレル。

組合省ハ人選ヲ軍當局ニ要求シナケレバナラナイ。但シ將校、下士何レモ五名ヲ超ユル事ヲ許サヌ。

將校ノ中一名ハ其階級ニ於テ他ノ部員ノ上官タル事ヲ要スルモ指導者ノ上官タル事ヲ要シナイ。核ノ部員ハ平時ニ於テ轉補サレル事ガナイ。蓋シ仕事ノ澁滞ヲ恐レルガ故デアアル。核ノ權限ニ就テハ後段

参照。



b) 軍需工業局

軍需工業局ニ就テハ現在マダ核トシテ特別ノ局ハ設ケラレテキナイ。蓋シ其活動ハ大部分上記ノ民事動員委員會及産業觀察部ニ依ツテ管轄サレテキルカラデアル。

更ニ一九三五年八月「軍需品製作ニ關スル委員」ガ設ケラレルニ至ツタ。此委員ハ政府首長ニ直屬シ軍需工業及之ニ關聯スル諸活動ヲ監督スル但、「軍需品製作ニ關スル委員」ハ同時ニ民事動員委員會ノ委員長ヲ兼ネテ居ルカラ別ニ特筆スル程ノ改革デモナイ。一九三七年三月フアンシズム大評議會ノ決議ニ依リ「軍需品製作ニ關スル委員」ノ權限ハ五ヶ年ノ延長ヲ見ルニ至ツタ。

o) 食料局

一九三三年三月十三日附勅令第六七四號第一條ニ依リ食料局ニ對スル民事動員ノ核ガ農林省內ニ設置サレル事ニナツタ。食料局ノ核ハ本部ヲ農林省ニ置ク所ノ中央部ト十二ノ地方部ト行政的ニハ農林大臣ノ監督ニ服スルモ中央部ノ指令ニ基イテ活動スルトヨリ成ツテ居ル。

食料局ノ核ノ任務ハ食料品ニ關スル必要ナ資料ヲ蒐集シ戰時ニ於ケル食料品ノ需要ヲ事前ニ推定スル事ニアル。其任務ヲ遂行スルニ當リ中央部ハ民事動員委員會及當面ノ問題ニ關係アル其他ノ戰時局ノ核ト協力スル。同様ニ地方部ハ其地方ノ巡回農業學校、民事官廳、



軍事自廳ト聯絡スル。

食料局ノ核ヲ監督スル者ハ豫備ノ戰傷將校デアル。但、農業、國民經濟ニ關シ相當程度ノ豫備知識ヲ持ツテ居ル事ヲ必要トスル。豫備將校ヲ任命スルニハ軍醫局長關係長務官廳ノ諒解ヲ求メナケレバナラナイ。

以上ノ目的ノタメ、十六名ノ將校ガ任命サレテ居ルガ、中四名ハ中央部ニ、十二名ハ地方部ニ各一名宛配屬スル。

其他ハ非軍人デアル。

中央部ハ農林省ノ監督ニ服スルカラ農林省デ非軍人ノ人選ヲ行フ事ニナツテ居ル。地方部デハ農業視察官ガ非軍人ノ人選ヲ行フ。

農林大臣ハ特殊問題ノ調査ニ當リ、關係各省、民事動員委員會、全國研究評議會、統計局及公認サレタ職業組合ノ代表者ヲ招イテ其意見ヲ求ムル事ガ出來ル。

4) 宣傳並ニ扶助局

此局ニハマダ核ガ設ケラレテ居ナイ。

宣傳活動ニ就テハ宣傳省ガ専門的ニヤツテ居ル。扶助局ヲ何處ニ持ツテ行クカハ問題デアル。

5) 勞働局

勞働局ノ核ハ組合省ニ屬シ、軍需品及生活必需品ノ生産ニ必要ナ勞働力ノ動員ヲ平時ニ於テ準備スル事ヲ任務トスル。此核ハ任務遂行



ニ當リ民事動員委員會、其他ノ戰時局ノ核ト協働スル。  
又必要ナ資料、情報ノ蒐集ニ當リ地方ノ職業紹介所ヲ利用スルコト  
ガ出來ル。

### 3. 市民的抵抗委員會

( *Comitati per la resistenza civile* )

市民的抵抗委員會ハ、戰時編成ニ於ケル最下級ノ組織デアル。其レハ  
純地方的性質ヲ有シ、役員下令ト共ニ、設置サレル。

市民的抵抗委員會ハ、各市町村ニ置ク。

各市町村長ハ、事前ニ縣知事ノ許可ヲ得テ、設置ヲ命ズル。

市民的抵抗委員會ハ、總務部ト其ノ他ノ委員ヨリ成ル。總務部ハ市町  
村長、地方フアンシス夕黨ノ政治書記長及ビ縣知事ノ任命スル一名ノ市  
民ヨリ成ル。總務部ハ、總テノ方面ニ於テ市民的抵抗委員會ヲ代表シ  
其ノ會議ヲ許可スル。

委員會自体ヲ構成スル者ハ、地方婦人フアンシヨノ書記長、職業組合



ノ地方的代表者及ビ一般市民、就中全國的戰士團及ビ戰傷者團體ノ代表者デアアル。

委員會ノ活動ニ關シ、縣知事ハ、一般的準則ヲ決定スル。委員會ハ、總務部ノ指令ニ基イテ行動スル。總務部ハ又、縣知事ニ對シテ、諸般ノ狀況ヲ報告スル。

委員會ノ任務ハ、次ノ三ツニ分レテ居ル。

- (1) 情報機關タル事。
- (2) 裁判所ノ補助機關タル事。
- (3) 實行機關タル事。

情報機關トシテ委員會ハ、重要ナ情報ヲ、即時、縣知事ニ報告スル。

裁判所ノ補助機關トシテ、關係市町村内ニ於テ、戰時規律ニ關スル法

律ノ實施ヲ監督スル。此ノ爲、委員長ハ、法律違反ノ發生スル毎ニ、之ヲ關係裁判所又ハ行政官廳ニ報告スル。其ノ他ノ委員ハ、此ノ點ニ關シテ自分ノ知ツテ居ル事ヲ悉ク委員長ニ報告シナケレバナラナイ。實行機關トシテノ委員會ハ、要スレバ戰時局ヲ輔佐シ、中央政府及ビ其ノ地方的代表者ノ指令ノ實施ヲ容易ナラシメ勞働力ノ調達ニ關シ、都市及國家ノ營造物ノ活動ヲ援助スル。就中委員會ハ、重需關係ノ官營工場及ビ市營工場ニ對シ、勞働力補給餘力ニ關スル報告ヲ提出スル。但シ法律的拘束力ヲ有スル命令ヲ發スル事ヲ許サレナイ。

此ノ外、市民的抵抗委員會ハ、日記帳ヲ作ラネバナラナイ。日記帳ニハ動員ニ關スル一切ノ重要事項、命令ガ記録サレル。就中民事動員委員會ノ活動ハ、特別ノ考慮ヲ拂ハレル。



日記帳ニハ、更ニ人口移動狀況並ビニ其ノ理由、人民ノ健康狀態、空襲ト其ノ結果、最後ニ民心ノ動キヲ記入シナケレバナラナイ。

### (Ⅲ) 戰時ニ於ケル國民ノ非軍事の義務

#### (A) 一般的戰時奉仕義務及戰時規律

民事動員ノ基礎ヲナスモノハ、軍人以外ノ一般國民ガ、其性別、年齢ノ如何ヲ問ハズ第一線ノ兵士ト全ジ犧牲奉公ノ大精神ヲ以テ、國土ノ精神的、物質的防衛ニ協力スル事デアアル。此目的ノ爲一般國民ハ戰時規律ニ服從シナケレバナラナイ。此事ハ何等カノ理由ニ依リ、動員ヲ受ケテ居ナイ兵役義務者ニ就テモ全様デアアル。其レハ一般的動員デアアルト、部分的動員デアルトヲ問ハナイ。政府ハ軍隊及一般銃後國民ノ補給ノ爲要スレバ、國民ノ個人的奉仕又ハ協働的奉仕ヲ要求スル事ガ出來ル。伊太利國土内ニアル又ハ、伊太利市民ニ屬スル一切ノ動産又



ハ不動産ヲ―少數ノ例外ヲ除キ―收用スル事ガ出來ル。

戰時義務ハ、個別的ニ疑義ノ餘地ノ無イヤウニ、明確ニ規定サレテ居ル。義務違反ニ對スル懲罰ハ違反者ノ身分―普通ノ市民デアルカ、國家ノ使用人デアルカ、或ハ又軍需工場ノ從業者デアルカニ依リ―ニ依ツテ、異ツテ居ル。戰時奉仕義務ノ内容ハ次ノ如シ。

a) 滿十六才ヨリ七十才ニ至ル總テノ國民ハ、政府及關係官廳ノ要求アレバ其總テノ物質的、精神的力ヲ捧グル事ヲ要スル。但シ軍人及官吏ニ就テハ例外規定ガ適用サレル。

b) 支出及消費ハ之ヲ出來得ル限り制限スル事ヲ要スル。但シ十六才未滿ノ青年、七十才以上ノ老人及健康上ノ理由ニ依リ、特別ノ看護ヲ

必要トスル者ハ此ノ限りデナイ。

c) 國防力ヲ減殺スルガ如キ一切ノ行爲ヲ慎ム事。

d) 關係官廳ノ命令ニ對シテハ、遲滯ナク且ツ絶對的ニ服従スベキ事。

e) 軍事ニ關スル情報ヲ得タル場合ニハ、遲滯ナク之ヲ關係官廳ニ報告スベキ事。

f) 祖國ノ防衛ニ資スル一切ノ行動ニ對シテ貢獻スベキ事。

有用ナ仕事ヲ爲スニ適サナイ國民モ亦其勞働能力ノ限度内ニ於テ、a)ニ定ムル戰時義務ニ服スル事ガ出來ル。但シ妊娠中及産褥中ノ婦人ニ對シテハ、特別規定ガ存在スル。即、以上ノ状態ニアル婦人ハ、母性保護法ノ定ムル權利ヲ平時ニ於ケルト全様享樂スル事ガ出來ルノデア



ル。

市民的抵抗委員會ハ、戰時奉仕義務ヲ有スル一般國民ニ對シ假令「非  
勤員者」デアツテモ、特別ノ奉仕（給付）ヲ要求スル事が出來ル。奉  
仕ノ方法、態様及時期ハ場合ニ依ル。但シ地方的必要ノ存スル場合ニ  
於テノミ以上ノ奉仕ヲ要求スル事が出來ル。

即、地方的（縣又ハ市町村）意義ヲ有スル公營（非國營）施設、國防  
ニ關係アル補助施設ノ工場等ノ爲ニ必要ナル場合ニ於テノミ義務ヲ命  
ズル事が出來ルノデアル。

以上ノ義務ヲ課シ得ル者ハ、市民的抵抗委員會ノ委員長デアル。

市民的抵抗委員會ガ特定ノ義務ヲ命ジタル場合、義務者ハ縣知事ニ對

シテ控訴ヲ提起スル事が出來ル。控訴ハ五日以内ニ提起スベク、五日  
ヲ過ギタル場合ニハ無効デアル。控訴ニ對スル縣知事ノ決定ハ、決定  
的デアル。縣知事ノ決定ハ控訴提起者及市民的抵抗委員會ノ委員ニ通  
告シナケレバナラナイ。

#### (b) 民事勤員ニ服スル人々

總テノ國民ハ原則トシテ、以上述べタルガ如キ埒内ニ於テ、戰時規律  
ニ服スルガ、民事勤員ハサウデナイ。即、民事勤員ハ特定ノ人ニ對シ  
テ適用サレルモノデアリ、民事勤員ヲ受ケル人ハ、戰時規律ニ基ク奉  
仕義務ノ外ニ、特別ノ義務ヲ負フノデアル。特ニ罰則ガ重クナツテ居



ル。民事動員ニ服スル者ハ次ノ通りデアル。

ノ一九三一年十二月十四日附法律第八條ノ定ムル營造物、之ニ就テハ  
W. B. 2. ヲ参照。

ニ滿十四才以上ノ國民（男女トモ）ニシテ、次ニ掲ゲル營造物ニ使用  
又ハ屬スル者。

a) 國家行政機關。

b) 一九三一年十二月十四日附法律第八條ノ規定ニ依リ、民事動員ヲ  
受ケタル官營及民營ノ營造物又ハ會社。

o) 何等カノ國家行政上ノ公務ヲ有スル總テノ人ハ公務期間ニ限りテ  
民事動員ニ服スル。

民事動員ノ効力ハ次ノ如ク個別的ニ定メラレテ居ル。

國家ノ使用人ニ就テハ、常任の使用人ト一時の使用人ト本來ノ意味ニ  
於テ官吏デナイトテ區別スル。

常任の使用人

公務範圍内：：懲戒規定ノ強化。  
公務外：：現行法ノ罰則ヲノ<sub>る</sub>ダケ強化スル。

此外常任の使用人ハ現行法ノ規定ノ違奉ニ對シテ積極的ニ協力スベキ  
義務ヲ有スル。

一時的使用人ニ對スル民事動員ノ効力ハ、常任の使用人ニ於ケルト全  
ジデアル。但シ此ノ爲官吏懲戒規定ノ適用ヲ受ケル。

五日以上義務ヲ放棄スル場合ニハ平時ニ於ケル脱走トシテ、單刑法ニ



依り處罰サレル。

動員ヲ受ケタル營造物ノ使用人ニ就テハ此ヲ參照。

(四) 軍需工業ニ對スル國家統制

(A) 平時

情報權

a) 一般的ナモノ

政府ハ一九二五年六月八日附法律第十一條ノ規定ニ依リ戰時ニ對スル組織ヲ目的トシテ、調査ヲ行フコトガ出來ル。カクシテ得ラレル資料ハ動員ニノミ利用サルベク嚴ニ秘密ヲ保タネバナライ。秘密ヲ漏洩スル場合ニハ一九三一年十二月十四日附法律第四六條ニ依リ五〇〇リラテ下ラザル罰金刑ヲ課スル。

以上ノ一般的權限ハ實際上其程重要デナイ。蓋シ各種ノ動員機關ハ



法律ニ依ツテ定メラレタル特別ノ情報權ヲ有スルカラデアル。  
但、民事動員委員會ハ情報權ヲ有シナイ。蓋シ民事動員委員會ハ主  
トシテ他ニ依ツテ得ラレタ情報ノ蒐集機關トシテ働クカラデアル。  
b) 産業觀察部

産業觀察部ハ産業ノ分野ニ於ケル最も重要ナ情報機關デアル。産業  
觀察部ハ其任務達成ノタメ個々ノ工場、工場ノ機械的設備、其生産  
能力、其原料ノ半製品ニ對スル需要ニ就テ正確ナ知識ヲ持ツテ居ナ  
ケレバナラナイ。故ニ一九二八年一月八日附命令第十一條ニ依リ産  
業觀察部ニハ廣範圍ノ情報權ガ認めラレテ居ルノデアアル。即

(1) 企業者及指導的使用人ハ要求アリ次第、産業觀察部ニ對シ其經營

ニ關スル所要ノ報告書ヲ提出シナケレバナラナイ。

(2) 産業觀察部ハ自由ニ工場ニ出入シテ設備ヲ觀察スル事ガ出來ル。  
カクシテ得ラレル情報ハ經營ニ關係アル事項ニ限ラレ且、秘密ニ保  
持サレナケレバナラナイ。蓋シ情報ノ誤用ヲ防止スルガためデアアル。  
産業觀察部ハ經營上ノ秘密事項ニ關スル限り、カクシテ得ラレタ情  
報ハ民事動員委員會ノ書記局ニノミ通報スルヲ要スル。即以上ノ情  
報ハ其他ノ産業家、一般私人、其他ノ國家機關ニ對シテ秘密ヲ維持  
サレナケレバナラナイ。秘密ヲ漏洩スルトキハ禁錮及罰金刑ニ處セ  
ラレル。

過失ニ依リ營業上ノ秘密ヲ漏洩スル場合ニモ同様ノ刑罰ガ適用サレ



ル一一九二八年一月八日附命令第十二條一

所要ノ情報ヲ與ヘル事ニ依ツテ會社ノ利益ガ重大ナル影響ヲ受ケル場合、會社ハ直接民事動員委員會ノ委員長ニ情報ヲ提出スル事ガ出來ル。

情報ノ提出ヲ拒ミタル場合ニハ、禁錮又ハ罰金刑ヲ課スル。

即、産業觀察部ハ情報ヲ有スルニ止リ、干涉ヲ行フ權限ヲ有シナイノデアアル。

o) 原料局ノ核

原料局ノ核ハ輸入業者及運送業者ニ對シテ情報ヲ求ムル權限ヲ有スル一一九三三年三月二日附命令第四一五條一

即、輸入業者及運送業者ハ原料局ノ核ニ對シ所要ノ報告書ヲ提出シ且、此事ニ關シテハ沈黙ヲ守ラネバナライ。

原料局ノ核又或種ノ指令ヲ發スル權能ヲ持ツテキル。

從ツテ原料局ノ核ノ權限ハ産業觀察部ノソレヨリハ廣汎デアアル。蓋シ原料局ノ核ニ關スル命令ハ産業觀察部ニ關スル法律ヨリ五年後レテ發布サレタカラデアアル。

輸入業者及運送業者ニシテ報告ノ義務竝ビニ沈黙ノ義務ニ違反スル場合ニハ禁錮及罰金刑ニ處セラル。

核ノ自吏ハ産業觀察部ニ於ケルト同様、得ラレタル報告ニ關シテ秘密ヲ嚴守シタケレバナライ。



核ノ長官ハ以上ノ情報ヲ組合省内ニ於ケル其直屬上官ト民事動員委員會委員長ニノミ通報スルヲ要スル。

以上ノ規定ニ違反スル場合、伊太利刑法ノ定ムル懲戒罰ヲ課スル。

## 2 動員計畫

動員計畫ハ兵役義務ヲ有セサル者ヲ以テ工場及官廳ノ活動ヲ維持スル事ヲ目的トスル。動員計畫ハ平時ニ於テ立案サレル。動員計畫ハ最初、各省内ノ官廳ニヨリテ、次イテ最高國防評議會ノ命ニ基キ動員計畫實施ノ義務ヲ負擔スル總テノ職業組合、會社、團體ニヨツテ立案サレル。最高國防評議會ハ總テノ動員計畫ヲ綜合シ各省カラ必要ナル統計資料

ヲ蒐集スル。

動員計畫ニ關シテハ戰時規律法施行令ニ詳細ナル規定ガアル。

之ニ依レバ動員計畫ヲ立案スベキモノハ次ノ如シ。

a) 行政機關

b) 僱主、從業者及自由職業者ノ全國總聯合組合ニシテ、法律ノ承認ヲ受ケタルモノ

c) 最高國防評議會議長ノ命令ニ依リ動員計畫ヲ立案スベキ其他ノ營造物及企業（一九二五年六月八日附法律）

d) 一九三一年七月廿四日附勅令第十四條ニ依リ經營ノ繼續ヲ計ルタメ使用人ノ兵役免除又ハ召集猶豫ヲ請願スル權利ヲ有スル營造



物

即、民間企業モ亦廣ク動員計畫ノ立案ニ協力スベキ義務ヲ有スルノデアル。蓋シ最高國防評議會ハ以上ノ義務ヲ總テノ軍需企業ニ課スルデアラウカラ。

動員計畫ハ産業ノ戦争準備ニ關スル國家的監督及干涉ノ重要部分ヲナスモノデアル。蓋シ國家ハ勞働力ヲ配分スベキ義務ヲ負ヒ關係各機關ハ經營ニ關スル正確ナル知識ヲ得テ戰時ニ於ケル企業ノ繼續ヲ確保スル事ガ出來ルカラデアル。

動員計畫ノ内容ハ一九三三年六月十五日附命令第二十八條ニ依ツテ定メラレ動員計畫立案機關ガa)、d)ナルトb)、e)ナルトニ依ツテ異ナツ

テ居ル。a)、d)ニ對シテハ

1 動員時ニ於ケル行政機關又ハ營造物ノ編成

2 兵役免除又ハ召集猶豫ヲ必要トスル使用人ノ名前ヲ列記スル事

3 召集ヲ受ケタル者ニ代ルベキ使用人及擴充ノタメ新タニ使用サルベ

キ使用人ノ名前ヲ列記スル事

但、動員計畫立案ノ時ニ於テ人物ガマダ確定シテ居ナイ場合ニハ豫定サレタル人物ヲ數的ニ性質的ニ列舉スル事ヲ要スル。

b)、e)ニ對シテハ2)、3)ニ定メラレル外、法的ニ公認サレタ職業組合ノ指導者ガ召集ヲ受ケタル場合之ニ代ルベキ人物ヲ記名スルヲ要スル。以上ノ如クニシテ作製サレタ動員計畫ハ之ヲ關係大臣又ハ官廳ニ提出



シテ其承認ヲ求メナケレバナラナイ。

行政官廳、軍需工業、生活必需品産業及法的公認ヲ受ケタ職業組合ノ  
使用人ハ動員時ニ於テ七〇才迄ノ國民一男女共ニ依ツテ補充サレル  
一一九三三年六月十五日附命令第三十三條一  
補充ハ次ノ如クニシテ行ハレル。即

最高國防評議會議長ノ定ムル企業及營造物ニ就テハ職業紹介所、民事  
動員委員會又ハ最高國防評議會議長ノ指定スル官廳ガ補充用員ノ調達  
ヲ司ル。

行政官廳ニ就テハ主務省ガ全國職業組合總聯合ニ於テハ組合省ガ一九  
三三年六月十五日附命令第二十七條d)ノ定ムル營造物ニ就テハ陸軍省

又ハ組合省ガ補充ヲ司ル。

工場ニ於ケル補充ノ方法ハ以下ニ説明スル如ク微細ニ互ツテ規定サレ  
テ居ル。即各工場ハ毎年六月中ニ所要人員ヲ關係機關ニ對シテ申告ス  
ル。

一定期間經過後工場ハ割當ラレタ人員ニ關スル氏名一覽表ヲ下附サレ  
ル。同時ニ補充機關ハ配當サレタル人物ノ氏名、配當先ヲ繼メテ目錄  
ヲ作製スル。

個々ノ人物ニ關スル動員券ニハ必要ナ事項ヲ記入シテ之ヲ補充機關ニ  
保存スル。但應召ノ日附ト日トハ之ヲ空所ニスル。

動員ト共ニ動員券ニハ應召ノ日附ト日トヲ記入シタル上應召省ニ送達



スル。

動員券ノ交附ヲ以テ應召者ニ對スル民事動員狀態ガ發生スル。但此種ノ動員命令ハ縣知事ノ召集命令ニ依ツテモ行フ事モアル。縣知事ハ自己ノ意志ニ基イテ或ハ動員ニ關係アル省ノ委任ヲ受ケテ動員命令ヲ發スル。

以上ノ民事動員組織ハ迅速ニ所要人員ノ調達、補充ヲ行フ事ヲ主眼トスル。從ツテ動員ノ場合事務ノ滯滞ヲ避ケルタメ平時カラ實際ノ狀況ヲ不斷ニ知ツテオク必要ガアルノデアル。此タメ關係事實ニ變更ヲ生ジタル場合ニハ細大洩サズ之ヲ記録シテ置カネバナラナイ。即毎年五月民事動員計畫ハ之ヲ一應仔細ニ再檢討シ、要スレバ補充機關ノ承認

ヲ求メテ之ヲ修正シナケレバナラナイ。

以上ニ述べタル如ク全軍需工業ハ、民事動員計畫ヲ通ジテ常ニ待機ノ姿勢ニアルノデアル。カクスルコトニ依ツテノミ戰爭勃發當初ニ起リ勝テ經營上ノ滯滞ヲ避ケル事ガ出來ルノデアル。同時、ニ報酬問題及失費ニ關スル賠償ノ問題モ亦決定サレル。報酬ハ應召者ガ公務ニ向ケラレルカ私務ニ向ケラレルカニ依ツテ異ル。



### 3. 許 可

以上ニ於テ説明シタ權能ダケデハ、國家ハ、經營ニ干涉スル事ガ出來ナイ。然ルニ、軍需工業ニ於テハ單ナル情報權ダケデハ不充分デアル。即、軍需工業ハ國家ニ依ル直接的統制、干涉ヲ必要トスルノデアル。伊太利政府ハ、一九二九年既ニ、軍需工業統制ノ必要ヲ宣言シ、一九二九年十一月十八日附命令第二四八八號ニ依ツテ統制ノ第一歩ヲ踏ミ出スニ至ツタ。即、本命令第一條ニ依リ伊太利政府ハ最高國防評議會ノ提議ニ基キ、戰爭遂行上必要ト認ムベキ工業ヲ指定スル事ガ出來ルノデアアル。

以上ノ權限ニ基キ、軍需工業ノ指定ハ、一九三〇年七月十八日附勅令第一四五五號及一九三二年六月二十九日附勅令第二〇六七號ニ依ツテ



行ハレタ。

第一ノ勅令ニ依ツテ、軍需工業ニ國防上重要ナ生産物ヲ生産スル工業トシテ指定サレタ工業ハ次ノ如シ。

- (1) 兵器
- (2) 戦用器材
- (3) 弾薬及爆發物
- (4) ラヂオ器具
- (5) 電信器材
- (6) 其他戦争ニ必要ナ製品
- (7) 航空機工業
- (8) 造船業
- (9) 運送機關製作工業

一見シテ明ナル如ク、右ノ軍需工業一覽表ハ、大マカニ過ギル感ガア

ル。元來、伊太利政府ノ意圖ハ、戦争遂行ニ必要ナ産業ヲ悉ク網羅スル事ニアツタカラ、個別的ニ列擧スル事ヲ意識的ニ避ケタノデアアル。今一ツ、右ノ一覽表ニ就テ注意スベキハ、完成品ダケヲ含ンデ居ツテ原料及半製品ヲ除外シテ居ルト云フ事デアアル。

此ノ缺陷ヲ矯正スルタメ、一九三二年六月二十九日附勅令ハ、上記ノ工業ニ對シテ、原料、半製品ヲ供給スル工業ヲモ、軍需工業トシテ指定スルニ至ツタ。即次ノ如シ。

- (10) 鐵工業。主トシテ製鐵業ヲ含ム、蓋シ鐵加工ハ(1)乃至(9)ニ含まレテ居ルカラデアアル。

(11) 屈折性(熔鑠)ノ出來ヌ一礦石ヲ加工スル工業。

(12) 電氣器具製作工業。



特定工業ヲ軍需工業トシテ指定スル事ノ効果ハ、國內ニ工場ヲ新設又ハ擴張スル場合組合省ノ許可ヲ要スルト云フ事デアアル。

(一九二九年十一月十八日附命令第二條)。

即、組合大臣ハ最高國防評議會ノ意見ヲ聽取シタル後、最後の決定ヲ與ヘルノデアアル。此ニ依リ、政府ハ、軍需工場ノ新設、擴張ニ對シテ、決定的統制ヲ與ヘル事ガ出來、之ヲ、國防上ノ要求ニ合致セシムル事が出來ルノデアアル。政府ハ、此ノ爲施行細則ヲ發令スル權限ヲ與ヘラレテ居ル(一九二九年十一月十八日附命令第三條)。

各個々ノ軍需工業部門ニ於ケル統制

#### a) 石油業

石油及石油製品ハ、軍ノ機械化過程ガ進ムト共ニ、益々重要ナ軍需品

トナツタ。從ツテ、石油業ヲ戰時編成ノ中ニ織リ込ミ平時カラ之ニ國家的統制ヲ加フル事ハ絶對的必要トナツタ。

伊太利デハ、石油業ノ特殊的性質ニ鑑ミ、石油業ヲ既存ノ戰時編成機關ニ從屬セシメタダケデハ、不充分ト考ヘラレテ居ル。既存ノ戰時編成機關ハ統制ニ關シ、何等カノ協力權ヲ有スルニ止ルノデアツテ、統制ハ原則トシテ、組合省ノ仕事ニナツテ居ル。組合省ノ權限ハ、國益ニ關スル殆ド總テノ方面ニ亘ツテ居ル。即、情報權、監督權、認可權、干涉權ヲ有スルノデアアル。

石油並ビニ燃料經濟ハ、三大部門ニ分ケラレテ居ル。即石油及石油製品ノ輸入、石油ニ對スル加工、及ビ石油ノ貯藏デアアル。

以上各部門ニ就イテ、許可ガ規定サレル。即輸入許可、工業的加工



ノ許可及び貯藏許可デアル。許可ヲ與ヘル場合ニハ、許可證ニ所要ノ事項ヲ記入セシメル。許可證ハ、企業ニ對スル永續的統制ヲ可能ナラシメル。

以上ノ外ニ、一般的統制方法が存在スル。

一九三三年十一月二日附勅令第一七四一號——後一九三四年二月八日附法律第三六七號トナル——及び之ニ對スル一九三四年七月二十日附施行令第一三〇三號ハ、此ノ種ノ一般的統制方法ヲ規定スル。法律的規律ノ對象トナルモノハ、一切ノ鑛物性油デアツテ、此ノ中ニハ、原油ノ外ニ、蒸溜ノ際ニ生ズル殘渣、其他一切ノ誘導物、生産過程ニ於テ脱落スル物ヲ含ム。但シココニ原油ト云フハ、所謂原油ノ外ニ、地蠟、石炭タール、褐炭タールヲモ含ム。

以下ニ、鑛物性油ト云フノハ、別段ノ定ナキ限り、以上ニ列舉サレタ總テノ物ヲ含ムコトヲ注意スベキデアル。

#### 審査委員會

組合省ノ中ニ、特別ノ機關トシテ、審査委員會ナルモノヲ設置スル。審査委員會ノ任務ハ、輸入許可、加工工場設立ニ關スル許可及び貯藏許可ニ對スル申請ヲ審査スル事ニアル。委員長ハ、組合大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル者デアル。委員會ハ、六名ノ委員ヨリ成リ、組合大臣、大藏大臣、内務大臣、公共事業大臣、交通大臣及び民事動員委員會ハ夫々一名ノ委員ヲ任命スル。委員會ノ議事ハ、絶對過半数ヲ原則トシ可否同數ナルトキハ、委員長ノ決スル所ニ依ル。委員會ハ、諮問的機能ヲ有スルノミデアル。即委員會ノ仕事ハ、許可ノ申請ヲ採擇スベキ



ヤ否ヤ、許可ノ條件方法ハ如何、何人ニ許可ヲ與フベキヤ、最後ニ、  
數人ノ申請者が競合スル場合、何人ヲ優先セシムルヤ等ニ關シテ、意  
見ヲ具申スル事ニアル。以上ノ諸任務及ビ後述ノ或種ノ協力權ヲ除キ  
委員會ハ、何等ノ權限ヲモ有タナイノデアアル。

尙、五〇〇立方米以上ノ容量ヲ有スル貯油設備ヲ建設スル場合、組合  
大臣ハ豫メ、最高國防評議會ノ意見ヲ求ムル必要ガアル。

#### 輸 入 許 可

礦物性油ノ輸入ニ對シテ、國家ガ統制スルノハ、輸入量ガ各場合ニ應  
ジテ、一〇〇〇吨ヲ下ラザル場合、又ハ月額一五〇〇〇吨ヲ下ラザル  
場合デアアル。輸入ニハ、組合大臣ノ輸入許可ヲ必要トスル。

輸入許可ハ、月額三〇〇吨ヲ超ユル輸入ニ對スル一般的輸入許可ト、

個々ノ輸入ニ對スル個別的輸入許可トニ分レル。個別的輸入許可ノ場  
合ニ於テハ、輸入月額ハ三〇〇吨ヲ超過スルヲ得ナイ、輸入許可ヲ受  
ケタ者ハ、許可ヲ受ケテカラ二ヶ月以内ニ輸入ヲ行ヒ、之ヲ自家消費  
シナケレバナラナイ。

輸入許可ニハ、多クノ例外規定ガアル。例ヘバ、次ニ掲ゲル場合ハ、  
輸入許可ヲ必要トシナイ。

國境通過ノ自動車ガ、通常必要トスル分量ノ石油

外國ニ送り戻サレル石油

船舶、飛行機ノ消費ニ向ケラルベキ石油

伊太利ニ於テ、海外輸出ノタメ、加工精製サルベキ石油

輸入許可ヲ與ヘル權限ヲ有スルモノハ、一般ニ組合大臣デアアル。組合



大臣ハ、交通大臣ト協議シ審査委員會ノ意見ヲ求メタル上、最後の決定ヲ下スノデアル。

一般的許可 (Licenza Generale)

組合大臣ハ、大藏大臣ト協議ノ上、石油ノ場合ニハ最高二〇年、誘導物ノ場合ハ最高二ケ年ヲ限度トシテ、一般的輸入許可ヲ與ヘル。一般的許可ハ、之ヲ取消ス事ガ出來ナイ。一般的輸入許可ニ依ル國家的統制ノ特色ハ、輸入許可命令ノ中ニ包含サルベキ諸條件デアル。輸入許可ハ、申請者ガ、規定ノ諸條件ヲ形式的ニ受諾スル場合ニ於テノミ、法律の効力ヲ發生スル。此ノ條件ハ輸入者ノ義務、從ツテ又組合大臣ノ權利ヲ規定スルモノデアル。組合大臣ノ權能ハ、性質上カラ見レバ情報權、監督權及ビ優先權、保證權ト呼バレルモノデアル。干涉權及

ビ之ニ類似ノ權利ハ、輸入許可命令中ニハ含マレテ居ナイノデアツテ個別的決定ヲ必要トスル。一般的輸入許可ハ、輸入サルベキ石油ノ種類及ビ各年度ニ於ケル最高輸入額ヲ定メナケレバナライ。

一般的輸入許可ヲ受ケタル輸入業者ハ、輸入額ノ $\frac{1}{6}$ ヲ下ラザル範圍内ニ於テ、自己所有ノ倉庫又ハ他人所有ノ倉庫ニ、石油ヲ貯藏スル義務ヲ負擔スル。貯藏サルベキ石油ノ總量及ビ各種石油製品別ノ配分ハ一般的輸入許可ニ依ツテ定メラレル。

輸入業者ハ又毎月貯藏石油ノ數量、性質ニ關スル報告書ヲ、組合省ニ提出シ、其他組合省ノ要求スル一切ノ情報、資料ヲ提出スル義務ガアル。

更ニ組合省及ビ大藏省ノ石油統制ニ關係アル官吏ハ、自由ニ輸入業者



ノ倉庫、事務所ニ出入シ、要スレバ輸入ニ關係アル帳簿、文通、其他ノ文書ヲ検査スル事が出來ル。最後ニ一般的輸入許可ハ、石油ニ對スル國家、官廳ノ需要ヲ優先的ニ充足シ、要スレバ、關係官廳ノ要求ニ基キ、國家的利益ヲ有スル契約ノ實施ヲ保證スベキ事ヲ定メテ居ル。即組合大臣ハ緊急ノ場合關係大臣ト協議ノ上、命令ヲ以ツテ、政府及官廳ニ對スル石油ノ納入ヲ強制スル事が出來ルノデアアル。

組合大臣ニ對シテ、輸入許可ヲ申請スル場合ニハ、申請書中ニ、石油ヲ希望額ダケ輸入スルニ足ル資力ヲ有スル事ヲ示サナケレバナラナイ。申請書ニハ、此ノ外輸入ノ目的、輸入サルベキ石油ノ種類、年輸入量、月別配當額、石油貯藏倉庫ノ狀況等ヲモ記入シナケレバナラナイ。

輸入許可申請者ハ、審査期間中ニ於イテ、輸入許可命令中ニ定メラレル事項ニ關シ、組合省ノ要求スル情報、資料ヲ提出シナケレバナラナイ。即輸入許可申請ハ、主トシテ情報ノ爲ニ役立つテ居ルノデアツテ、組合省ハ之ニ依リ、平時經濟的ニ、將タ又戰時經濟的ニ重要ナ事實ニ關シ正確ナ知識ヲ獲ル事が出來ルノデアアル。

輸入許可申請者ガ、輸入許可命令ニ定メラレル總テノ條項ヲ、形式的ニ承認シタルトキ初メテ、輸入許可ハ效力ヲ發生スル。

輸入量ハ、各年度ニ就キ、決定サレル。組合大臣ハ、大藏大臣ト協議ノ上、命令ヲ以ツテ、一率ニ二〇%ダケ以上ノ年輸入量ヲ増減スル事が出來ル。

石油ノ輸入ガ一般的輸入許可ニ定メラレル年別輸入量ヲ超過スル場合、



嚴重ナル罰則ガ適用サレル。

### 個別的許可

個別的輸入許可ハ、比較的小量ノ石油ヲ輸入スル場合、個別的ニ與ヘラレルノデアルカラ、一般的輸入許可ニ於ケル程強力ナ統制ハ、之ヲ必要トシナイノデアル。蓋シ輸入量ト、輸入石油ノ用途ヲ知レバ充分デアルカラ。

輸入許可申請書ニハ申請者ノ人物、會社デアレバ、法定代表者ノ人物、輸入ノ目的、輸入サルベキ石油ノ種類、數量及ビ用途、輸入品ガ使用サレル前ニ保存サルベキ場所及ビ税關ヲ記入シナケレバナライ。

此ノ外、申請書ニハ、輸入サルベキ石油ガ、自家消費用デアル旨ノ宣言ヲ記入スル必要ガアル。輸入サレタ石油ヲ有償的又ハ無償的ニ、第

三者ニ移轉スル事ハ禁止サレテ居ル。定期的ニ石油ヲ輸入スル工業上ノ又ハ農業上ノ工場ハ以上ノ外、一ケ年間ノ輸入見積書ヲ、組合大臣ニ提出シナケレバナライ。



### 鑛油ノ加工ニ對スル特許

鑛油及石炭、褐炭、タール、アスファルト性岩石ヨリ得ラル、油ヲ蒸溜加工、精製スルニハ特許ヲ必要トスル。機械油ヲ再生スル場合ニモ又特許ヲ要スル。特許ノ申請ニ關スル手續、機關ハ輸入許可ノ場合ト全ジデアル。唯特許ノ場合ニハ最高國防評議會ガ意見ヲ具申スル權能ヲ持ツテ居ル點ニ特色ガアル。

特許期間ハ二十年ヲ超ユルヲ許サナイ。但シ使用サレル原料、生産物ノ數量ヲ變更スル場合ニハ新ナル特許ヲ必要トシ、設備及勞働行程ヲ變更スル場合ニハ其都度豫メ關係官廳ノ許可ヲ待ナケレバナラナイ。更ニ特許ヲ一般的輸入許可ト結付ケル事モ可能デアル。特許所有



者ノ經營ガ重大ナル變動ヲ蒙ツテ、勞働行程ガ變化スルトキハ、通常ノ手續ニ依リ、改メテ二十年間ノ特許ト輸入許可トヲ與ヘル事ガ出來ル。

一 般的輸入許可ノ場合ニ於ケルト全様、特許ガ法的効力ヲ發生スル爲ニハ、特許出願者ガ、出願書及特許命令ニ定メラレル總テノ條件ヲ満足スル事ヲ必要トスル。特許出願者ガ受諾スベキ條件及義務ハ次ノ如シ。

即、生産ハ組合大臣ガ承認シタ場所、方法ニ於テ爲サレナケレバナラナイ。

組合大臣ハ此場合大藏大臣ト協議シ最高國防評議會ノ意見ヲ求メナケ

レバナラナイ。即最高國防評議會ハ、意見ヲ具申スル權能ヲ有ツテ居ルノデアアル。

更ニ鐵夫ハ伊太利ノ國籍ヲ持つテ居ル事ヲ必要トシ、此ニ對スル例外ハ其都度認メラレル。石油貯藏ノ義務、政府ニ對スル納入ヲ優先スベキ義務、國家的ニ重要ナル契約ノ履行ヲ保證スベキ義務ハ、一般的輸入許可ノ場合ト全様デアアル。之ニ關スル保證ハ特許命令中ニ記録サレナケレバナラナイ。

特許命令ニハ、此ノ外特許ノ目的、期間、工場ノ經營開始時期、各種生産物ノ年度額ヲ輸入シナケレバナラナイ。

特許出願書中ニ記入サルベキ内容ハ、組合大臣ニ對シ、極メテ詳細且



正確ナ情報ヲ與ヘル。其理由ハ次ノ如シ。

即、特許出願書中ニハ、出願者ノ人物（會社デアレバ創立契約ノ寫シ及定款ノ寫シヲ添ヘル）出願者ノ技術的能力及資力ニ關スル要領、加工方法、工場設立地、地主、交通機關及住宅ニ對スル工場ノ正確ナ位置及工場ノ高サヲ記入シナケレバナラナイ。

以上ノ外特許出願書ニハ原料ノ性質、數量、產地、貯油倉庫ノ性質、誘導物ノ輸出豫定量、生産物販賣方法等ヲ記入シナケレバナラナイ。更ニ外國産原料ノ加工デアルカ、國內産原料ノ加工デアルカヲ、區別シナケレバナラナイ。

此ノ外、原料ノ收益率ニ關スル技術的經營報告、設備費ノ概算、總設

備及個々ノ建物ニ關スルプランヲ添ヘナケレバナラナイ。

特別命令ニハ戰時ニ於ケル需要ノ増大ヲ顧慮シテ、誘導物ノ國內生産ヲ助長スルヤウナ項目モ含マレテ居ル。例ヘバ特許所有會社ガ外國カラ原料ヲ輸入シ、之ヲ内地デ加工シテ石油ヲ生産スル場合關稅ヲ免除サレル。

又國內産原料ノ加工ニ轉換シナケレバナラナイ工場ハ、外國産原料ノ加工ヲ完全ニ止メナケレバナラナイ。更ニ特許所有工場ハ特許ニ依ツテ定メラレタ生産量以上ニ三〇%ノ動員可能生産力ヲ平時持合セテ居ナケレバナラナイ。又特許ニ依ツテ定メラレタ月平均生産量ノ少クトモノ<sub>2</sub>ヲ生産シナケレバナラナイ。



組合省及大藏省ノ關係官廳ハ其他ノ規定ニ依ツテ與ヘラレル情報權、監督權ノ行使ニ依リ工場ニ對シ不斷ニ、統制ヲ加ヘル專ガ出來ル。コ  
コニ監督權トハ、工場ノ經營ガ組合省及大藏省ノ關係機關ニ依リ、不  
斷ニ技術的、金融的監督ニ服スル事ヲ云フノデアアル。此爲關係官廳ノ  
官吏及必要ナ場合其常任代表者ハ何時ニテモ自由ニ工場、事務所、倉庫  
ニ出入スル專ガ出來ルノデアアル。必要ナ場合帳簿及製造登記簿ノ検査  
ヲ行フ專モ出來ル。

特許所有會社ハ更ニ工場ニ於テ加工サレル原料ノ種類、數量、誘導物  
ノ種類、數量最後ニ倉庫、貯油槽及加工行程ニアル原料、生産物ノ種  
類、數量ヲ明瞭ナラシムルタメ特別登記簿ヲ作製シナケレバナラナイ。

毎年末ニハ此特別登記簿ヲ材料ニシテ財産目錄ヲ作製シ、之ヲ組合省  
ト大藏省トニ送達シナケレバナラナイ。

以上ノ外國家ハ、鑛油經濟ニ對スル統制ヲ確保スル爲廣汎ナ情報權、  
監督權及干涉權ヲ行使スル。

情報權ヲ行使スル爲組合省ハ鑛夫ノ氏名一覽表ヲ作製セシメル。其寫  
シハ定期的ニ組合省ニ送達サレ、鑛夫ニ關スル所要ノ資料ガ渡サレル。  
監督權ハ如何ニシテ行使サレルカト云フニ特許所有者ハ、特許命令中  
ニ定メラレル機關ノ公式的檢閲ガ濟ム迄ハ、工場ノ運轉ヲ開始スル事  
ガ出來ナイ様ニナツテ居ル。即工場設備ヲ検査シ検査調査ヲ作製シ其  
寫シヲ組合省ニ送達シナケレバナラナイノデアアル。



必要ニ應ジ最高國防評議會及軍當局モ以上ノ工場檢閲ニ參加スル事ガ出來ル。此場合豫メ其通告ヲナサナケレバナラナイ。

特許命令中ニ記録サレル義務及條件ガ履行サレテ居ルヤ否ヤヲ監督スルタメ専門ノ監督官ヲ任命スル。監督官ハ義務違反ノ事實ヲ認ムル場合組合省ニ報告スル。

大藏大臣ハ現行規定トハ獨立ニ國家財政ヲ擁護スルニ必要ナ一切ノ行動、保證ヲ命ズル事ガ出來ル。

特許所有者ハ、組合省ノ許可ナクシテ經營ヲ中止スル事ガ出來ナイ。蓋シ燃料供給ノ杜絶ヲ阻止センガ爲デアル。

特許期間ノ滿了ト共ニ直チニ經營ハ中止サレルガ、貯藏石油ガ使用シ

盡サレル迄ハ經營ヲ繼續シテ差支ナイ。

關係官廳ハ緊急ニシテ且重大ナル安全上ノ理由ガ存在スル場合又ハ、「公共ノ利益」ガ之ヲ要求スル場合經營ノ即時停止ヲ命ズル事ガ出來ル。「公共利益」ナル概念ハ非常ニ廣ク解釋スル事ガ出來ルカラ、ココニ強力ナル國家、干涉ノ餘地ガ殘サレテ居ルノデアル。全時ニ又關係官廳ハ石油權ヲ空ニスル事ヲ命ズル事ガ出來ル。此場合組合省ヲシテ機宜ノ處置ヲ講ゼシムルタメ以上ノ事實ヲ組合省ニ報告シナケレバナラナイ。



### 石油貯蔵ニ對スル特許

石油倉庫ヲ建設シ經營スル場合ニモ又政府ノ特許ヲ必要トスル。此場合倉庫ガ貯油槽ノ設備ヲ有スルト否トニ關係シナイ。

統制ノ對象トナルノハ蠟油、機油及一般燃料ノ倉庫及石油ノ自動配給器デアル。但、容量五立方米以下ノ倉庫及石油配給器竝ビニ容量二五立方米以下ノ自家用消費、農家用、工業用ノ倉庫ハ此限りデナイ。石油販賣器ハ民有地ニ又ハ工場敷地内ニ設置シナケレバナラナイ。特許出願者ハ自家消費ヲ報告シナケレバナラナイ。

特許手續及後關ハ加工ニ對スル特許ト同様デアル。但シ必要ニ依リ最高國防評議會ノ意見ヲ求メナケレバナラナイ。容量五立方米以下ノ石



油配給器及石油倉庫ニ對スル許可ハ之ヲ縣知事ニ委任スル事ガ出來ル。  
特許命令ハ特許期間及開業ノ時期ヲ決定スル。

特許命令ハ經營ノ目的、貯藏サルベキ燃料ノ種類其最高量及貯油ノ義務ヲ定メル。貯油ノ程度ハ特許命令ニ依ツテ決定サレルガ倉庫容量ノ少ナクトモ三〇%、多クトモ五〇%ヲ占メナケレバナラナイ。

官廳納入ニ對スル優先的取扱、伊太利ノ國籍ヲ有スル従業員ヲ使用スベキ義務、貯油狀態ニ關スル月報提出ノ義務、官吏ノ自由出入及検査ヲ甘受スベキ義務及國益上重要ナル契約ノ履行ヲ保證スベキ義務等ハ加工ニ對スル特許ト同様デアル。

以上ノ外、特許所有者ハ特殊ノ義務ヲ負擔スル。即特許所有者ハ經營

ヲ中止スルヲ得ナイ。設備ノ秘密維持、偽裝、安全ニ關シ十分ナ注意ヲ拂ハナケレバナラナイ。又許可ナクシテ設備ヲ變更スルヲ得ナイ。即設備ハ規定通り使用サレナケレバナラナイ。

特許出願書ニハ出願者ノ人物一會社デアレバ、法定代表者ノ人物一、特許ノ目的、倉庫ノ設立地、倉庫ノ容量、石油槽ノ性質、地主、建物ノ建築様式並ビニ安全設備、交通中心地、住宅カラノ距離、建物ノ高さ、機械及材料ノ生産地ヲ記入シナケレバナラナイ。

沿岸倉庫ノ場合ニハ此外技術的報告及敷地圖ヲ添ヘル。奥地倉庫ノ場合ニハ簡單ナ技術的報告、設計圖及敷地圖ヲ添ヘル。

自動石油配給器ノ場合モ同様デアル。



倉庫ノ管理ハ特許所有者自身又ハ其代表者ニ依ツテ爲サレナケレバナ  
ラナイ。但特許所有者ハ官廳ノ許可ヲ得テ倉庫ヲ賃貸スル事ガ出來ル  
此場合以上ノ諸義務ハ依然トシテ特許所有者ガ負擔スル事ニナツテ居  
ル。

#### 一 般的 規 定

以上ノ外尙數個ノ一般的规定ガアル。

重要ナ事ハ輸入許可及特許ハ何レモ對人的ナモノデアルカラ豫メ組合  
大臣ノ許可ヲ得ル事ナクシテハ之ヲ讓渡又ハ移轉シ得ナイト云フ事デ  
アル。

以上ノ規定ニ違反シタル場合ニハ、五〇〇〇乃至一〇〇〇〇リラノ罰

金刑ヲ課セラル會社ノ場合ニハ各取締役ガ以上ノ罰金刑ヲ適用サレル。  
組合大臣ハ以上ノ法律ニ對スル違反ノ事實ガ存在スル場合罰金刑トハ  
獨立ニ經營ノ閉鎖ヲ命令スル事ガ出來ル。

以上ノ外特許及輸入許可ノ濫用ヲ防止スルタメ、組合大臣ハ義務違反  
又ハ法律違反ノ事實ヲ發見シタル場合、失効宣言ヲ發スル事ガ出來ル  
個別的輸入許可ノ場合ニハ許可ヲ取消ス事ガ出來ル。組合大臣ハ以上  
ノ失効宣言ヲ發スルニ當リ審査委員會ノ同意ヲ求メナケレバナナイ。  
但其決定ニ對シテハ控訴ヲ提起スル事ガ出來ル。尙内務大臣ハ安全ニ  
關スル命令ヲ發スル事ガ出來ル。

石油統制ノ内部的行政機構ニ關スル或種ノ規定ハ興味ガアル。例へバ



組合等ハ特許ノ出願ヲ受ケルヤ之ヲ審査シタル後關係官廳及交通大臣ノ同意ヲ求メル。此場合市長ノ意見ヲ求メル事ガアル。下級行政官廳ハ輸入許可及特許ニ關シ何等ノ決定權ヲ持ツモノデハナイガ、半年毎ニ倉庫帳簿、生産資料ヲ組合大臣ニ提出シナケレバナラナイ。更ニ大蔵大臣ハ關稅規則及販賣規則ニ關シ經營ヲ監督スル。

b) 防毒面製作工業

一九三二年五月二十三日附法律第五五一號及之ニ對スル一九三三年五月二十九日附命令一三三〇號ノ施行令ハ優良ナ防毒面ノ製作ヲ確保スル爲防毒面製作工業及防毒面ノ販賣ヲ統制スル事ヲ目的トシテ制定サレタ。

一九三二年五月二十三日附法律第一條ハ、防毒面製作、販賣ニ關スル國家統制ノ原則ヲ定メル。

防毒面ニ對スル國家統制ハ二群ニ分レル。即

防毒面一吸收罐ヲ含ム一ノ製作ニ對スル特許ト販賣ニ對スル特許デア  
アル。

特許ノ出願ヲ受理シ、許可スル機關ハ陸軍省ノ化學本部（Centro Chimico Militare）デア  
アル。販賣、讓渡ノ目的ヲ以テ防毒面ヲ製作シ又ハ特殊ノ外國産防毒面ヲ販賣スル者ハ以上ノ特許ヲ得ナケレバナラナイ。特許ハ各防毒面ノ型ニ就イテ之ヲ求メナケレバナラナイ。



特許出願書ニハ製作セントスル防毒面ノ型ニ關シ詳細ナ説明ヲ記載シナケレバナラナイ。其個々ノ項目ヲ列記スル事ハ技術的方面へ深入リスル感ガアルカラ、ココデハ觸レヌ。

要スルニ特許出願書ダケヲ一目シテ、部分品ノ性質ナリ其有效年限等ガ判然スル事ガ其眼目デアル。特許出願ニ當ツテハ使用方法ノ説明ト三個ノ完全ナ見本トヲ添ヘナケレバナラナイ。尙製作セントスル防毒面ノ商標ヲ記入スル事ヲ要スル。以上ノ資料ハ秘密ニ保存サレナケレバナラナイ。

化學本部ハ特許出願ヲ受理シタル後、提出サレタ見本ニ關シ技術的研究ヲ行フ。此場合製作費ヲ願慮シテ軍用防毒面トシテ満たスベキ

最少限度ノ要求ガ満たサレテ居ルカドウカヲモ研究スル。化學本部ハ以上ノ研究ニ基キ最後の決定ヲ與ヘル。但個々ノ試験ノ結果ハ會社ニ報告シナイ。特許出願ヲ拒絕スル場合ニハソノ理由ダケヲ通告スル。

特許出願ガ拒絕サレタル場合ニ於テモ新ラタニ出願スル事ヲ妨ケナイ。

特許ヲ得タル場合ニハ見本通りノ防毒面ヲ製作シナケレバナラナイ。各商標ニハ製作日附、吸収罐ノ有效年限、保證満期ノ時期ヲ記入スル。

防毒面ノ販賣ニ關スル統制ハ販賣サレル防毒面ガ製作ノ特許ヲ受ケ



タ防毒面デアルカドウカ又販賣サレル防毒面ガ事實製作ノ特許ヲ受ケタ防毒面ト一致スルカドウカヲ監督スル事ヲ目的トスル。監督ノ任ニ當ル者ハ司法警察官吏又ハ地方ノ民事官吏デアル。此爲彼等ハ防毒面製作工場及販賣事務所ニ自由ニ出入シテ必要ト思ハレル検査、研究ヲ行フ事ガ出來ル。見本ト違ツタ防毒面ガ販賣サレテ居ル事ヲ發見スル場合ニハ之ヲ押收シテ爾後其販賣ヲ禁止スル。検査ノ爲防毒面ノ各部分品ニ就、一個宛押收シテ遲滞ナク之ヲ化學本部ニ送ル。検査ノ結果證明書ヲ下附スル。違反、押收等ニ關シ記録ヲ作ラナケレバナラナイ。一九三二年五月二十三日附法律ニ對スル違反ノ事實ガ歴然タル場合ニハ其旨ヲ縣知事ニ通報スル。以上ノ通

報ヲ受ケタ縣知事ハ販賣禁止ヲ命シ違反者ヲ裁判所ニ訴ヘル事ガ出來ル。検査ノ爲送ラレル防毒面ニ關シ化學本部ハ最後の決定ヲ下ス検査ノ結果ハ之ヲ會社ニ通告スル。

外國製防毒面ノ販賣ニ對スル特許モ製作ノ特許ト同斷デアル。此場合外國會社ガ特許會社トナルノデアル。

防毒面ニ對スル統制ハ防毒面ノ輸出ニ及ブ事ガアル。此爲輸出會社ハ必要ナ資料ヲ陸軍省ニ提出シナケレバナラナイ。

。)  
地圖製作

一九三〇年六月二日附法律一一三九號ハ主トシテ軍機保護ノ目的ヲ以テ地圖ノ製作ヲ統制スル。



本法ニ依リ測量部ノ事前許可ヲ得ズシテ三〇萬分ノ一以下ノ地圖ヲ作製スル事ハ出來ナイ。

本法ノ統制ヲ受ケル地圖ハ測量圖、地圖、地形圖、スケツシデアツテ地理學上ノ著書、科學上ノ著述、旅行ニ關スル著述又ハモノグラフィーニ發表サレル場合ニ於テモ本法ノ適用ヲ受ケル。測量部長ハ此種ノ地圖ニ關シ特定部分ノ發表ヲ禁止スル事ガ出來ル。此場合測量部長ハ關係各大臣ノ意見ヲ聽取シタル後陸軍省廻狀ヲ以テ地圖製作者ニ對シ以上ノ通告ヲ發スル。場合ニヨリ以上ノ禁止規定ノ適用カラ除外サレル事モアリ得ル。軍事上特別ノ意義ヲ有スル地帯ニ關シ測量部長ハ以上ノ廻狀中ニ列舉サレテ居ナイ部分ノ描寫ヲ制限シ又

ハ禁止スル事ガ出來ル。但此場合ハ陸軍大臣ノ特別命令ニ依ル。不  
必要ナ困難ヲ避ケルタメ測量部長ハ豫メ現行法ノ規定ニ關シ地圖製  
作者ト協議スベキデアル。

測量部ハ禁止權及制限權ヲ有スルバカリデナク又或種ノ監督權ヲ持  
ツテ居ル。即測量部ハ國內ニ於ケル地圖製作ニ關シ一般的ニ統制權  
ヲ持ツテ居ルノデアル。此場合測量部ハ軍務各省ノ代表者トシテ行  
動スル。

更ニ伊太利國土及植民地ニ關スル地圖ヲ作製スル場合ニハ軍當局ノ  
統制ニ服シナケレバナラナイ。軍當局ハ安全ノ理由又ハ軍機保持ノ  
爲必要ト認ムルトキハ浮出地圖ヲ作製スル事ガ出來ル。



法律ノ施行ヲ確保スルタメ法律違反ノ事實ヲ發見スル場合ニハ地圖製作ニ使用サレタ材料及地圖ノ現品ヲ押收スル事ガ出來ル。但其他ノ刑罰ノ適用ハ之ニ依ツテ妨ゲラレル事ガナイ。

(2) 動員後ニ於ケル國家統制

ノ一般的義務

國土内ニアル一切ノ營造物(Works)ハ國土防衛及抵抗ニ對シ戰線ノ勇士ト同シ覺悟ヲ以テ協力スル義務ヲ負フ。

彼等ノ貢獻ハ彼等ガ各種ノ奉仕ニ服スル事デアル。營造物ト云フ觀念ハ廣範圍ニ互リ國內ニ存在スル總テノ組織体即、法律上又ハ事實上ノ協會(Institution)、總テノ職業組合、結社、會社、團體及組織ヲ包含スル一八九三一年十二月十四日附法律第一條一。

一般的奉仕義務ニ服スル外、此等ノ營造物ハ地方官廳及市民的抵抗委員會ノ召集、要求ニ對シ服従スベキ義務ヲ負フ。即營造物ハ其性質ノ



如何ヲ問ハズ要求サレル一切ノ情報ヲ與ヘナケレバナラナイ。

一一九二八年一月八日附命令第四條。

以上ノ義務ニ服スルノハ原則トシテ動員サレタ營造物ニ限ルノデアアルガ市民的抵抗委員會ハ其管轄地域内ニアル非動員營造物ニ對シテモ特定ノ給付ヲ命ズル事ガ出來ルノデアアル。給付ノ種類、時期ハ其場合ニ應シ市民的抵抗委員會ニ依ツテ決定サレル。但緊急ノ場合又ハ委員會ヲ召集スル事ノ出來ナイ場合ニハ總務部ノ決定ニ依リ、公文書ヲ以テ營造物ニ通告スル。

市民的抵抗委員會ハ遲滯ナク以上ノ命令ヲ縣知事ニ通報シナケレバナラナイ。縣知事ハ委員會ノ決定ヲ取消シ、又ハ其無効ヲ宣言スル事ガ

出來ル。

市民的抵抗委員會ノ命令ニ對シテハ命令受領ノ日ヨリ五日以内ニ縣知事ニ對シ異議ヲ申立タル事ガ出來ル。五日ヲ過ギタル場合ハ無効デア

ル。縣知事ハ異議ノ申立人及市民的抵抗委員會ニ對シ其決定ヲ通報スル。

#### ニ營造物ノ民動員

營造物ハ民動員ノ宣言ヲ以テ之ヲ民事的ニ動員スル事ガ出來ル。軍動員ガ既ニ決定シタル場合ニ於テ政府首長ハ關係各省ノ提議ニ基キ命令ヲ以テ民動員ヲ宣言スル。軍動員ガマタ行ハレテ居ナイ場合



ニハ政府首長ノ提議ニ基キ勅令ヲ以テ民事動員ヲ宣言スル。但勅令ハ公布シナイ。

全部的又ハ部分的民事動員ニ對スル宣言ハ次ノ如クニシテ發セラレル。

(1) 國有營造物及民有營造物ニ對シテハ上述ノ規定ニ依リ官報ニ公布サレル命令ヲ以テ之ヲ行フ。但特別ノ事情アル場合ニハ公布シナイ。

(2) 軍需工業局ノ統制ヲ受ケル工場ニ對シテハ、軍需工業局ノ決定ニ依ル。此種ノ工場ニ對スル民事動員ハ軍需工業局ガ工場ニ對シ全部的ニ又ハ部分的ニ補助工場ニ轉換スベキ命令ヲ發シタル時ニ、成立スル。一九三一年十二月十四日附法律第八條一。

關係各省又ハ軍需工業局一軍需工業局設置サレザル場合ハ、民事動員

委員會一ハ民事動員ニ關スル命令又ハ決定ヲ遲滯ナク關係工場ニ通告シナケレバナラナイ。

民事動員命令ハ以上ノ通告ヲ受理スル事ニ依ツテ發效スル。但動員ハ一部ノ工場ニ限ラレル事ガアル。

民事動員ノ宣言ガ發セラレル時、企業ノ使用人及指導者ハ特殊ノ義務ニ服スル事ニナル。

(1) 企業ノ幹部ハ民事動員命令又ハ補助工場ニ轉換スベキ命令ヲ受理シタル時ヨリ二十四時間以内ニ其従業員ニ對シ民事動員ノ發動ヲ通告スルト共ニ要スレバ服務命令ヲ以テ民事動員ノ結果發生スル新タナル義務ヲ認識セシメル。



以上ノ通告ハ作業場ノ揭示ニ依ル事モアレバ、個人的ニ口頭ヲ以テ傳ヘル事モアル。

動員令ガ官報上ニ公布サレナイ場合ニハ、常ニ後ノ方法ニ依ル。此場合従業者ハ民事動員ノ發動ニ關シ秘密ヲ嚴守シナケレバナラナイ。以上ノ規定ニ違反スル場合ニハ半年以上三ケ年ノ懲役ニ處スル。

(四) 民事動員ハ民事動員ヲ受ケタ工場ノ従業者ニ對シテ次ノ如キ効力ヲ有スル。

a) 服務規律ニ定メラレル懲戒罰ノ強化。

臨時工ト雖モ此規定ノ適用ヲ受ケル。

懲戒權者及懲戒ノ方法ハ犯罪ノ程度ニ依リ異ルガ、一般ニ職工長

ガ懲戒權ヲ行使スル。

b) 正當ナル理由ナクシテ五日以上一兵役ヲ免除サレタル者又ハ召集ヲ猶豫サレタル兵役義務者ハ二十四時以上一職場ヲ離レル時ハ伊太利軍刑法ノ定ムル「平時ニ於ケル脱走」ノ罪ニ問ハレル。五日以内ナルトキハ服務規律ノ定ムル懲戒罰ヲ強化スル。

以上ノ規定ニ對スル違反ノ事實が存在スル場合官廳デアレバ其長官、工場デアレバ其經營指導者ハ裁判所ニ告訴シナケレバナラナイ。

(六) 此外民事動員ノ効力トシテ民事動員ヲ受ケタ工場ノ従業者ハ國防又ハ市民的編成ニ必要デアル一切ノ情報ヲ提出スベキ義務ヲ負フ。以



上ノ義務ヲ怠ル場合ニハ一年以内ノ懲役刑又ハ罰金刑ヲ課スル。  
一九三一年十二月十四日附法律第九條ニ依リ民事動員ノ召集ニ應ジ  
ナイデ從業員ガ五日以内ニ職場ニ歸ラナイ場合、軍刑法ノ定ムル  
平時ニ於ケル脱走』ノ罰ニ問ハレル。此場合關係官廳又ハ營造物ノ  
幹部ハ裁判所ニ告訴スル。同時ニ召集ヲ發令シタル官廳ニ對シテモ  
通報シナケレバナラナイ。

### 3. 軍 需 工 場

軍需工場ノ從業員ニ對シテハ、極メテ嚴格ナ規定ガ存在スル。即此ノ  
場合ニハ軍法會議ニ依リ處斷サレルノデアアル。此ノ規定ノ適用ヲ受ケ  
ル者ハ、年齢、性別ノ如何ヲ問ハズ、國營又ハ民營ノ動員軍需工場ニ  
所屬スル者又ハ之ニ依存スル總テノ關係者デアアル。軍需工業關係者ニ  
シテ且ツ兵役義務ヲ有スル者ハ、軍刑法ノ適用ヲ受ケル。但シ十八歳  
以下ノ青年ハ、刑法ノ規定スル刑ノ減免ヲ受ケル（一九三〇年十月十  
九日附勅令第一三九八號ニ依リ承認）。

軍需工業ノ關係者ニシテ、正當ナル理由ナクシテ、五日以上其ノ職場  
ヲ離レル場合——兵役ヲ免除サレタル者又ハ召集ヲ猶豫サレタル者ハ  
二十四時間——軍刑法ノ規定スル「平時ニ於ケル脱走」ノ罪ヲ以テ處



斷サレル。但シ其他ノ民事動員者ト異リ、判決ヲ與フル者ハ、普通裁判所デナク、軍法會議デアル。

(一九三一年十二月十四日附法律第三一條)。

以上ノ他、一聯ノ犯罪行動ニ對スル處罰ハ、一軍需工業従業者ハ軍人ニ准ズル一ト云フ立前ノ上ニ規定サレテ居ル。即次ノ如シ。

(1) 上役ニ對スル暴力行爲(二年乃至九年ノ懲役、勤務以外ノ理由ニ依ルトキハ、一年乃至五年ノ懲役)。但シ暴力行爲ガ故意ニ行ハレル場合ニハ、 $\frac{1}{3}$ 乃至 $\frac{1}{2}$ ダケ以上ノ刑ヲ加重シ、反對ニ加害ニ對スル激怒ノ結果トシテ暴力ヲ行使スル場合ハ、 $\frac{1}{3}$ 乃至 $\frac{1}{2}$ ダケ以上ノ刑ヲ輕減スル。

(2) 上役ニ對スル脅迫又ハ侮辱(半年乃至三年ノ懲役、勤務以外ノ理

由ニ依ル場合ハ、三ヶ月乃至二年ノ懲役。激怒ニ基ク場合ニハ(1)ト全一ノ減刑規定ヲ適用スル。

(3) 上役ノ勤務命令ニ對スル服從拒否(四ヶ月ヲ超ヘザル懲役)。

(4) (1)(2)ニ列記サレタ犯罪行爲ガ、軍需工場ニ關シテ懲戒權ヲ有スル軍當局ノ代表者ニ對シテ、行ハレルトキ、(1)(2)ニ於ケルト全一ノ刑ヲ適用スル。

(5) 上役又ハ監督軍人ガ權力ヲ濫用スル場合(半年乃至一年ノ懲役、但シ其他ノ事實ガ併存スルトキハ、加重サレル)。

下役ノ加害行爲ニ對スル激怒ニ因ルトキハ、 $\frac{1}{2}$ 乃至 $\frac{2}{3}$ ダケ、減刑スル。

此ノ場合、上役ガ如何ナル職務ニ就イテ居ルカヲ問ハナイ。必要



ナ事ハ上役デアルト云フ事實自体デアル。從ツテ工場内デハ、軍ノ階級ハ、何等ノ發言權ヲ持タヌ。(二)ニ就イテモ全斷デアル。

(一)從業者ニ依ル妨害、怠業及ビ物品ノ破壊(一年乃至五年ノ懲役、損害ノ程度ガ重大ナルトキハ、七年以上ノ懲役)。

十八歳以上ノ男子ニ對シテハ、軍ノ監督官廳ガ勤務規則ノ定ムル罰則ヲ充分デナイト考ヘル場合ニ限り、軍ノ懲戒罰ヲ適用スル。但シ此ノ場合監督官廳ノ意志ニ基ク事モアレバ、工場經營者ノ申請ニ基クコトモアル。

以上ノ罰則ヲ通觀シテ知り得ル事ハ、戰時ニ於テ、軍需工業ノ從業者ハ軍ノ嚴格ナ監督ヲ受ケルト云フ事デアル。此ノ外、工場内ニ於テ、勤務上ノ上役ノ地位ハ、一段ト強化サレ、軍ニ於ケル上官下官ノ關係

ニ匹敵スル事ヲ注意スベキデアル。

以上ノ手段ハ、戰時ニ於ケル軍需品補給杜絶ヲ防止シ、軍需工業勞働者ノ罷業ヲ避ケルタメ、絶對的ニ必要デアル。

軍需工業從業者ノ法律上、事實上ノ身分ガ、軍人ト同ジヤウニ見ラレテ居ルト云フ事實ハ、伊太利ガ將來戰ニ於テ、軍需品ノ生産ニ如何ナル意義ヲ認メテ居ルカヲ端的ニ指示スル。



(C) 軍需工業ニ對スル國家統制ノ最近ノ傾向  
軍需工業ニ對スル國家統制秩序ハ、以上ヲ以テ完結シテ居ルワケデハ  
決シテナイ。

否最近ノ發展ハ、行政機構ノ整調、擴充、軍需工業ニ對スル國家統制  
ノ強化ヲ示唆シテ居ル。

勿論或種ノ統制方法ハ、舊來ノ組織ノ埒内ニアル。例ヘバー一九三五年  
五月十五日ノ命令ニ依ツテ設置サレタ『工場設備諮問委員會』——工場  
ノ新設、擴張ニ關シテ意見ヲ具申スル——ノ如キハ此レデアアル。

然シ乍ラ一九三五年八月設置ヲ見タ『軍需工業統制委員會』ハ軍需工  
業統制ノ新段階ヲ劃スルモノデアアル。



一九三六年三月二十三日ノ演說ニ於テ、ムツソリニー首相ハ一聯ノ軍需工業ノ國有ヲ宣言シタ。此事ハ本質的ニハ既存ノ事實狀態ニ對スル法律的基础付テ意味スル。

一九三五年一月二十三日附勅令ヲ以テ創設サレタ「産業復興局」ハ其他ノ産業部門ノ株式ノ外ニ軍需工業株ノ多クヲ所有シタ。

軍需工業ノ國有ガ如何ニシテ如何ナル形式ノ下ニ行ハレルカニ就テ、例ノ演說ハ多クヲ語ラナイ。トハ云ヘ總テノ軍需工業ガ全一ノ形式ノ下ニ國有化サレルトハ考ヘラレナイ。國有ノ形式ハ軍需工業ノ種類ニ依ツテ異ルデアラウ。國有ノ對象トナルモノハ、重工業會社及資本主義的ニ又ハ「アマリニ資本主義的」ニ發達シタ産業部門デアラウ。此

種ノ産業部門デハ獨占化ハ高度ノ段階ニ達シテ居ル。組織形式ハマダ決定ヲ見ナイ。例ノ演說ニハ三ツノ形式ガアゲラレテ居ル。

第一ハ、國營デアリ

第二ハ、混合的即半官的經營デアリ

第三ハ、民營ニ對スル強力ナル國家統制デアル

此場合伊太利ニハ佛蘭西ニ於ケル様ナ統一のニシテ強力ナ統制が存在シテ居ナイ事即、多種多樣ナ統制方法ノ雜然タル塊ノミが存在シテ居ル事ヲ注意スル必要ガアル。

ムツソリニー首相ガ軍需工業國有ノ論據トシテ主張スル所ニ依レバ軍需工業ハ國防上ノ重要性ニ因リ私的經濟ノ域ヲ脱シテ、國家經濟ノ分



野ニアル。殊ニ其生産物ハ國家ニ依ツテノミ買取ラレルノデアアルカラ  
之ヲ民營ニ委スルノハ適當デナイト云フノデアアル。

此ニ依ツテ察スルニ軍需工業ノ中國家ガ唯一ノ買取者デアアルヤウナ部  
門ニノミテ國營ニ移シ其他ノ部門ニ對シテハ、國家的統制ヲ加ヘルト  
云フ事ニナルノデアアルマイカ。

以上ノ主張ヲ裏書スルモノハ、一九三七年四月ノ法律デアアル。此法律  
ニ依レバ資本金一億リラヲ超ユル巨大造船會社ニ對シ、國家ハ金融的  
ニ参加スル事ニ依ツテ統制スルノデアアル。即國家ハ造船株式ノ少クト  
モ半分ヲ所有スル事ニ依ツテ、造船會社ノ經營ニ對シ統制ヲ加ヘルノ  
デアアル。

農林大臣

食料局核  
中 央 部

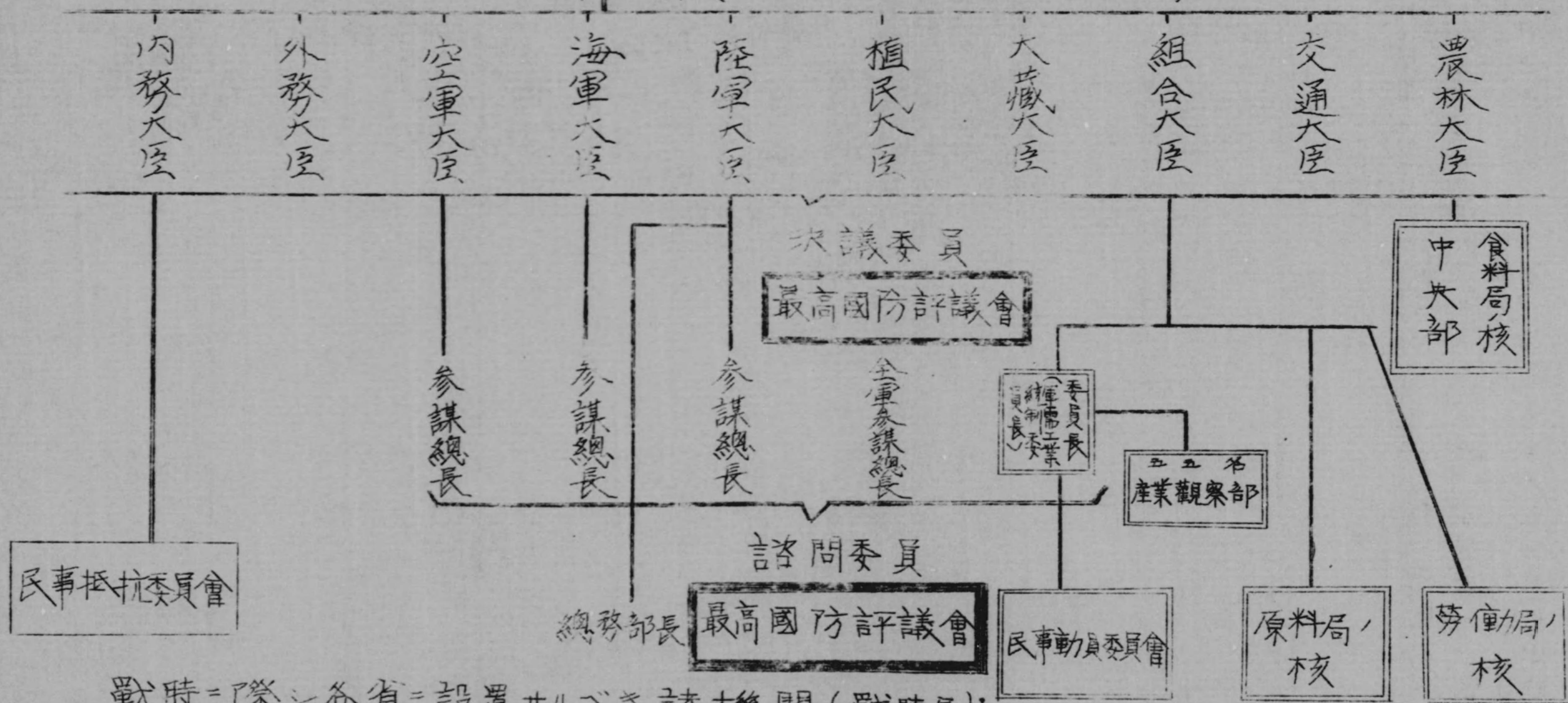
労働局ノ  
核

於時戰ハ  
設置サル  
機關  
機關



# 伊太利戰時動員組織一覽表

政府首長 (最高國防評議會議長)

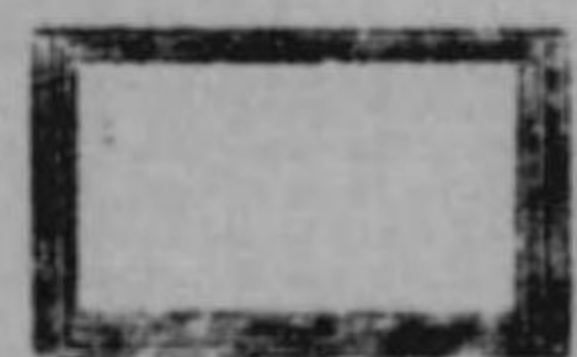


戰時=際シ各省=設置ナルベキ諸機關 (戰時局):

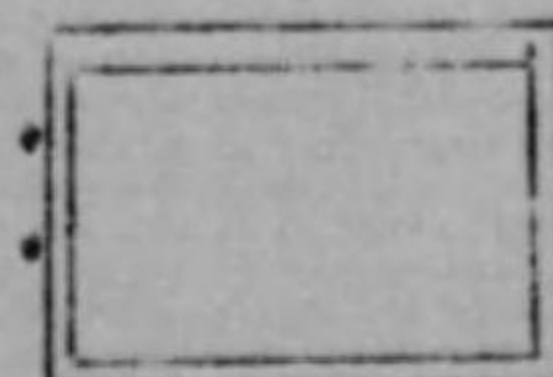
- 原料局
- 軍需工業局
- 食料局
- 宣傳並扶助局
- 勞働局

四局ノ活動ニ對シテ地方委員會

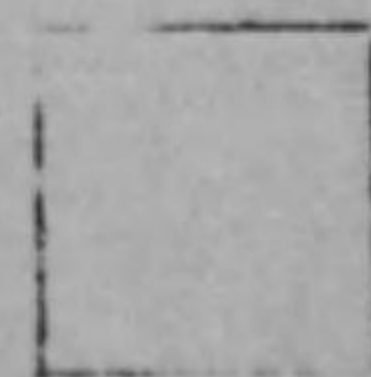
◎備考



常設機關:



準備機關:



戰時ニ於テ設置ナル機關



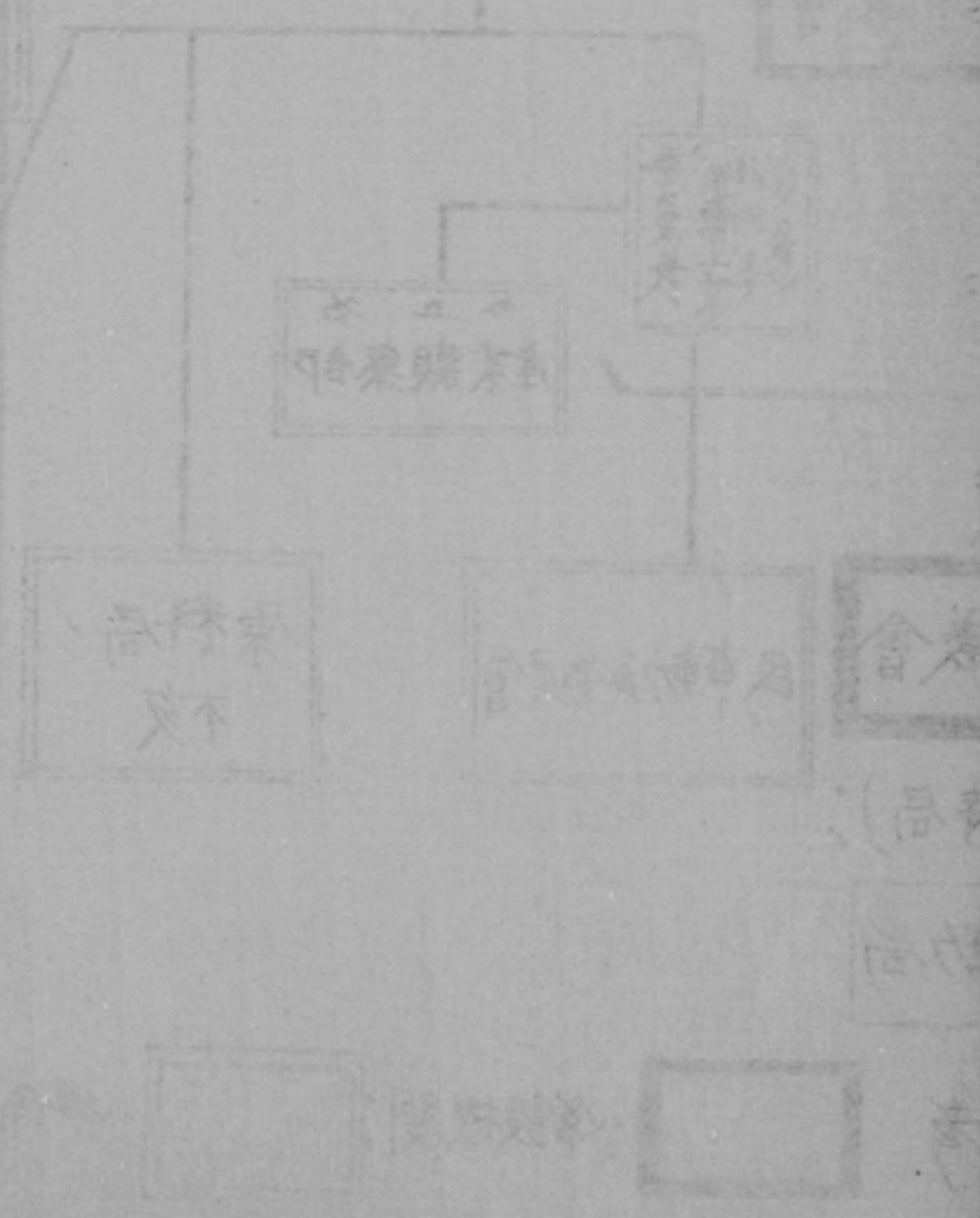
大學一編

(身居會館)

文獻

歷史

地理





VER 72



